

仏 教 学 部

履 修 要 項

昭 和 58 年 度

駒 澤 大 學

学 年 暦

前 期

- 4月8日(金) 入学式(学部・短大・大学院)
 釈尊降誕会
- 9日(土) } 新入生オリエンテーション
 }
- 13日(水) } 在校生成績発表
 12日(火) } (学部・短大・大学院)
 }
- 13日(水) } 授業開始
 14日(木) } 在校生成績質疑応答
 }
- 16日(土) }
 20日(水) } 1年次生単位履修届受付
 }
- 21日(木) }
 22日(金) } 2・3・4年次生
 28日(木) } 単位履修届受付
 29日(金) 天皇誕生日 (学部により受付日が異なる)
- 5月1日(日) 祝禱日
 2日(月) 研修日(全学休業)
 3日(火) 憲法記念日
 4日(水) 研修日(全学休業)
 5日(木) こどもの日
 10日(火) } 2・3・4年次生健康診断
 }
- 19日(水) }
 6月1日(水) 祝禱日
 9日(木) 卒業論文論題提出締切
- 7月1日(金) 祝禱日
 7日(木) } 中間試験(授業平常通り)
 }
- 13日(水) } 前期定期試験(前期終了科目)
 14日(木) } (授業休講)
 }
- 15日(金) 盂蘭盆会
 16日(土) 夏期休暇第1日

後 期

- 9月12日(月) 授業再開
 13日(火) 前期定期試験欠試験(追試申込)提出締切
- 15日(木) 敬老の日
 16日(金) 外国語指定届受付(22日まで)
 (仏教・文(除英米文)・法学部及び短大国文の1年次生, 経済学部の2年次生)
- 16日(金) } 前期定期試験成績発表および
 } 再試験申込受付
 17日(土) }
 23日(金) 秋分の日
 26日(月) } 前期追・再試験(授業平常通
 27日(火) } り)

- 29日(木) 両祖(道元・瑩山禪師)忌
 10月1日(土) 祝禱日
 3日(月) } 1年次生健康診断
 }
- 5日(水) } 達磨忌
 6日(木) }
 6日(木) } 社会学科(1年次生)・
 } 歴史学科(2年次生)・
 7日(金) } 専攻コース指定届受付
 10日(月) 体育の日
 15日(土) 第101回開校記念日
 18日(火) } 前期追・再試験成績発表
 }
- 19日(水) }
 11月1日(火) 祝禱日
 3日(木) 文化の日
 21日(月) 太祖(瑩山禪師)降誕会
 23日(水) 勤労感謝の日
- 12月1日(木) 祝禱日
 }
- 3日(土) } 転部科試験願書受付
 5日(月) } 編入学願書受付(13日まで)
 8日(木) 成道会
 9日(金) 転部科試験
 10日(土) 卒業論文提出締切(正午)
 19日(月) 冬期休暇第1日
 20日(火) 編入学試験

昭和59年

- 1月9日(月) 授業再開
 15日(日) 成人の日
 17日(火) } 定期試験(専門・基礎・教職
 } 科目)
 27日(金) }
 26日(木) 高祖(道元禪師)降誕会
 28日(土) } 定期試験(一般・外
 2月1日(水) } 祝禱日 } 国語・体育科目)
 6日(日) }
 7日(火) } 定期試験欠試験届提出締切
 } 卒業論文口頭試問(後日揭示
 } 発表)
- 11日(土) 建国記念の日
 15日(水) 涅槃会
 21日(火) } 学部4年次生・短大生成績発
 } 表および追・再試験申込受付
- 22日(水) }
 28日(火) } 学部4年次生・短大
 3月1日(木) } 祝禱日 } 生追・再試験, 学部
 } } 1・2・3年次生追
 } } 試験
 5日(月) }
 19日(月) 卒業者名簿発表
 20日(火) 春分の日
 25日(日) 卒業式・大学院修了式

目 次

I	単位制と学年制	(2)
1.	単位と学年	(2)
2.	授業科目の単位計算	(2)
3.	授業科目の区分	(2)
II	卒業に必要な単位数と卒業論文	(3)
1.	卒業に必要な単位数	(3)
2.	卒業論文	(3)
3.	学 士 号	(4)
III	授業科目の履修方法	(5)
1.	一般教育科目の履修方法	(5)
2.	外国語科目の履修方法	(6)
3.	保健体育科目の履修方法	(7)
4.	基礎教育科目の履修方法	(9)
5.	専門教育科目の履修方法	(9)
6.	随意科目の履修方法	(14)
7.	再履修科目の履修方法	(14)
	※コード番号について	(15)
IV	履修科目の登録(履修届)とその作成順序	(18)
1.	履修科目の登録	(18)
2.	履修届記入上の注意	(19)
3.	履修届(時間割)の作成順序	(20)
V	試験および成績評価	(21)
1.	定期試験	(21)
2.	中間試験	(21)
3.	追・再試験	(21)
4.	成績評価・単位認定	(22)
5.	進級基準	(22)
6.	受験者心得	(22)
VI	クラス制およびクラス主任	(24)
VII	教職課程・資格講座	(24)
VIII	事務取り扱いについて	(25)
IX	届書・願書について	(27)
X	各種証明書取扱い窓口	(28)
	講 義 内 容	(29)

I 単位制と学年制

1. 単位と学年

授業科目の履修は「大学設置基準」に基づく単位制によって行う。単位制とは、授業科目を履修することにより、各授業科目に一定の基準によって与えられている単位を修得することである。従って、各入学年度の履修要項に定められている卒業に必要な単位を4年以上（7カ年をこえてはならない）の在学期間中に修得すれば卒業の資格が得られる。

しかしながら、本学では単位修得を体系的かつ合理的に進めるために、各年次において必修すべき科目と選択すべき科目が配当されているから、単位制と学年制の総合された学修制度といえる。

2. 授業科目の単位計算

授業科目の単位数は次のような基準によって定められている。

1 単位とは1科目につき45時間を通じて行う学修活動のことである。この45時間の学修活動は教室内における授業時間と教室外で学生各自が自主的に行う自習時間からなっていて、授業時間と自習時間の割合は、授業科目によって異なる。

3. 授業科目の区分

授業科目は次のように区分される。

1. 一般教育科目（人文分野・社会分野・自然分野）
2. 外国語科目（第1外国語・第2外国語）
3. 保健体育科目（講義・実技）
4. 基礎教育科目（必修科目）
5. 専門教育科目（必修科目・選択科目）
6. 随意科目（卒業に必要な単位に含まれない科目）

(a) 必修科目……必ず履修しなければならない科目

(b) 選択必修科目……数科目の中から所定の科目数または単位数を選び、必ず履修しなければならない科目

(c) 選択科目……自由に選び履修できる科目

Ⅱ 卒業に必要な単位数と卒業論文

1. 卒業に必要な単位数

授業科目の区分		科目数	修得単位	計	合計
一般教育科目	人文分野	3	12	24	
	社会分野	2	8		
	自然分野	1	4		
外国語科目	第1外国語	4	8	12	
	第2外国語	2	4		
保健体育科目	講義	1	2	4	
	実技	1	2		
基礎教育科目		4	16	16	
専門教育科目	必修	14	38	76	
	選択		30		
	卒論(必修)		8		

2. 卒業論文

イ. 4年次で卒業論文(1部)を提出し、その審査に合格しなければ卒業することができない。審査に合格した者には8単位を与える。

ロ. 論題提出

あらかじめ自己の研究目標をたて、適当な選択科目を履修し、4年次において学部所属の教員に自己の研究概要を述べ、指導教授を決定し、その承認を得て指定の期日6月9日(木)までに卒業論文の論題を届け出なければならない。

ハ. 論文作成について

(a) 論文作成にあたっては常に指導教授に相談して、その指導を受けなければならない。

(b) 用紙は大学所定の論文用紙を使用すること。

(c) 論文の枚数は序文より数えて50枚(100ページ)以上、100枚(200ページ)以内とし、それぞれページを記入すること。

(d) 表紙は指定のものを使用し、論文を二つ折りにして右とじとする。

(e) 上記の規定以外のものは受付けない。

ニ. 論文の提出期限は、12月10日（土）正午まで。

論文は、誤字、脱字、内容について点検してから期日までに教務部に提出すること。

※なお、期日後に提出した場合は翌年度審査し、9月に卒業するよう処理する。

（57年度以前入学生のみ適用）

ホ. 論文の審査について

論文は指導教授によって2月中旬までに審査され、論文の内容について口頭試問を行ったのち可否を判定する。

3. 学 士 号

大学に4カ年以上（7カ年をこえてはならない）在学し、卒業に必要な単位を修得した者には卒業証書を授与し、次の学士の称号が与えられる。

仏教学部	禅学科	}	文学士
	仏教学科		

Ⅲ 授業科目の履修方法

※北海道教養部では授業科目等に多少の変更を生ずる場合がある。

授業科目履修上の注意

- イ. 授業科目は、教授会の定めるところに従い各学年に配分する。ただし、随意科目はこの限りではない。
- ロ. 授業時間表の備考欄に番号が指定された科目は、本人の学生番号のクラスで履修すること。(再履修または指定された学年で履修できなかった場合はこのかぎりではない)
- ハ. 各学年に配分された授業科目は、当該学年に限り履修することができる。ただし、下級学年に配当された授業科目を上級学年において履修することはさしつかえない。
- ニ. 各学年の履修科目数の最低及び最高限度は教授会の定めるところによる。
- ホ. 一度単位の認定を受けた授業科目は、再度履修することはできない。

1. 一般教育科目の履修方法

人文分野	4 単位ずつ 3 科目	計	12 単位	}	合計 6 科目 24 単位
社会分野	4 単位ずつ 2 科目	計	8 単位		
自然分野	4 単位 1 科目		4 単位		

※ 2 年次までに所定の単位を修得していなければならない。

分 野	授 業 科 目	単 位	履 修 科 目 数	備 考
人文分野	宗教学Ⅰ(1年次必修)	4	} 「宗教学Ⅰ」を含めて3科目選択必修	
	哲 学	4		
	論 理 学	4		
	文 学	4		
社会分野	法 学 憲 法 (日本国憲法 2単位を含む)	4	} 2科目選択必修	教員免許状を取得しようとするものは「法学憲法」を必修とする
	経 済 学	4		
	社 会 学	4		
自然分野	自 然 科 学 概 論	4	} 1科目選択必修	
	心 理 学	4		
	人 類 学	4		

※「宗教学Ⅰ」の授業は月曜日に玉川校舎(道順は学生部で配布の学生手帳を参照)で行う。

2. 外国語科目の履修方法

外国語科目は英語・ドイツ語・フランス語・中国語・スペイン語・ロシア語の6カ国語が開講されている。これらのうち英語と入学手続の際に指定した外国語の2カ国語を履修することになり、その2カ国語を1年次および2年次において必要な科目数・単位数を必ず履修しなければならない。

履修年次	第1外国語		第2外国語		計	
	科目数	単位数	科目数	単位数	科目数	単位数
1年次	2	4	2	4	4	8
2年次	2	4	—	—	2	4
計	4	8	2	4	6	12

1年次の履修

6カ国語のうち英語1G・1Rの2科目と入学手続の際に指定した外国語1G・1Rの2科目で4科目8単位を必修とする。

授業科目	単位	科目内容	履修科目数	備考
英語 1G	2		1G・1R 2科目を必修とする。ただし1Gは英会話または英語LLに代替できる	LL (ランゲージ・ラボラトリー)
英語 1R	2			
英会話	2			
英語 LL	2	視聴覚教材を使用した語学教育		
ドイツ語 1G	2	文法	5カ国語のうちから入学手続の際指定した1カ国語1G・1Rの2科目を必修すること	
ドイツ語 1R	2	講読		
フランス語 1G	2	文法		
フランス語 1R	2	講読		
中国語 1G	2	文法		
中国語 1R	2	講読		
スペイン語 1G	2	文法		
スペイン語 1R	2	講読		
ロシア語 1G	2	文法		
ロシア語 1R	2	講読		

※英語科目内容

英語1G：意志表現と意志伝達の基礎を把握する。

英語1R：講読を通し内容と文構造の基本を把握する。

※「英語1R」の授業は月曜日に玉川校舎（道順は学生部で配布の学生手帳を参照）で行う。

2年次の履修

1年次で履修の2カ国語のうち、いずれかを第1外国語として2AⅠ・2AⅡの2科目4単位を必修すること。

授 業 科 目	単 位	科 目 内 容	授 業 科 目	単 位	科 目 内 容
英 語 2 A Ⅰ	2	講 読	中 国 語 2 A Ⅰ	2	講 読
” 2 A Ⅱ	2	”	” 2 A Ⅱ	2	”
ド イ ツ 語 2 A Ⅰ	2	”	ス ペ イ ン 語 2 A Ⅰ	2	”
” 2 A Ⅱ	2	”	” 2 A Ⅱ	2	”
フ ラ ン ス 語 2 A Ⅰ	2	”	ロ シ ア 語 2 A Ⅰ	2	”
” 2 A Ⅱ	2	”	” 2 A Ⅱ	2	”

外国語科目履修上の注意

- イ. 外国語科目の組分は、すべて授業時間表で指定するので、学生は自己の学科・学生番号（下4ケタ）により該当するクラスを履修すること。
- ロ. 1年次履修の外国語（英語と他の1カ国語）の中から第1外国語、第2外国語の別を学生自身が指定し、9月下旬に登録する。したがって1年次生は前期の授業で充分考慮の上登録すること。
- ハ. なお一層の語学教育を望む学生は、外国語随意科目を開講しているので進んで履修されたい。
- ニ. 不合格科目の再履修については別に定める。
- ホ. 2年次までに所定の単位を修得していなければならない。

3. 保健体育科目の履修方法

講義と実技に分かれ、1年次に2科目4単位を必修とする。

	授 業 科 目	単 位	備 考
講 義	保健体育理論	2	前期または後期
実 技	体育実技	2	

- イ. 講義の前期・後期の別は授業時間表で指定する。
- ロ. 講義、実技とも1年次で不合格となった者は「再履修クラス」を履修し単位を修得する。

- ハ. 講義, 実技とも2年次までに所定の単位を修得していなければならない。
- ニ. 講義, 実技とも月曜日に玉川校舎で授業を行う。

体育実技履修上の注意

イ. 授業について

前期・後期ともそれぞれ履修時間に含まれている数種目の中から希望する種目を選択し受講する。ただし、前期と後期は同一種目を選択することはできない。

(a) 種目選択届

最初の授業時間に、前期・後期ともつぎの履修時間に含まれている数種目の中から決定するので、必ず出席すること。

(b) 単位履修届

教務部に提出する「単位履修届」の科目名・担任名は授業時間表による科目名・担任名を記入すること。選択した種目名また種目の担任名ではない。

月・1 (禅・仏・国)	月・2 (英・地)	月・3 (歴・社)
陸上競技 ◎森本	陸上競技 森本	サッカー 秋田
サッカー 原山	サッカー ◎原山	ソフトボール ◎太田
ソフトボール 太田	ソフトボール 太田	テニス 浅野
テニス 浅野	テニス 浅野	卓球 長浜
室内球技 村松	室内球技 秋田	室内球技 宮沢
卓球 高橋	トレーニング 武藤	トレーニング 武藤
トレーニング 武藤	剣道 上山	空手道 高橋
剣道 上山		

再履修クラス (2年次生以上の再履修者のクラスで授業は本校で行う)

火・3	水・1	水・2
室内球技 ◎宮沢	室内球技 ◎原山	室内球技 ◎原山
空手道 大石	剣道 上山	剣道 上山

※◎印は講座主任

ロ. 単位の認定について

1年間の授業を通して2単位を認定する。前期と後期は種目選択の上で便宜上分けられるもので、あくまでも1年間の授業を通して単位を認定する。

ハ. 評価について

週一回の授業を真剣に受講することが、実技の重要な意味であることから、本学においては出席を評価の上で最も優先させている。この基盤の上に立って前期・後期それぞれの種目において行われる実技試験の点数、および平常の授業における態度が加味されて、実技の評価が行われる。

ニ. 校外学習

夏と冬の二回にわたって実施する。参加は希望制であり人数の制限がある。これは単位認定とは直接関係のない保健体育部主催の行事であるが、実技を受講している学生が参加した場合には評価の上で幾分か加味される。

ホ. 見学について

身体具合が悪い場合は、担任教員にその旨を報告し、授業を真面目に見学すること。

※長期見学者：前期または後期をほとんどあるいは全部見学せざるを得ない精神および身体上の故障や病気を持っている場合は長期見学者として取り扱い、毎時間の真面目な見学をもって出席に代える。また、実技テストは行わずレポートをもってこれに代える。レポートの課題については担任教員より指示を受けること。

ヘ. 服装・更衣について

種目毎に、それぞれ担任教員の指示に従い、指定された場所以外では着替えないこと。

ト. 盗難・事故・負傷について

(a) 盗難：実技の受講日には貴重品は持参しないこと。やむを得ず持参した場合には、担任教員に指示を受けること。最近、特に実技の時間を狙った常習者が横行しているので充分注意してほしい。

(b) 事故・負傷：実技の時間に事故や負傷が発生した場合には直ちに担任教員に報告し適切な指示を受けること。

チ. 掲示板の利用について

実技上の連絡は、玉川校舎事務室前の掲示板および玉川校舎入口の黒板に掲示するので、平常よく見ておくこと。

4. 基礎教育科目の履修方法

専門教育の基礎となる授業科目で1年次・2年次において4科目16単位を必修とする。

履修年次	授業科目	単位	備考
1年次	基礎仏教学	4	昭和50年度以降入学生のみ
	仏書解説Ⅰ	4	
2年次	仏教語解説	4	
	仏書解説Ⅱ	4	

5. 専門教育科目の履修方法

専門教育科目は必修科目と選択科目とに分れ、それぞれ定められた単位を修得すること

になっている。履修する授業科目の選択については専門科目全般にわたって充分検討して履修すること。

なお一度単位を修得した科目については再度履修することはできない。

禅 学 科

必 修 科 目 (46単位)

	授 業 科 目	単 位	科 目 内 容	備 考
二 年 次	禅 学 概 論	4		
	禅 宗 史 I	2	中国禅宗史	
	宗典講読 I	2	修証義・用心集・随聞記	
	禅学実習 I	2	坐禅（坐禅儀・用心記）	
三 年 次	宗典講義 I	4	正法眼蔵	
	禅 宗 史 II	2	日本禅宗史	
	宗典講読 II	2	大清規・信心銘拈提	
	禅 学 講 義	2	参同契・宝鏡三昧・証道歌	旧 禅学講義 I
	禅学演習 I	2	碧巖録・従容録・無門関	
	禅学実習 II	2	坐禅・法式・参禅指導	
	演 習 I	4		
四 年 次	宗典講義 II	4	伝光録	
	禅学演習 II	2	洞山録・永平広録・臨濟録	
	演 習 II	4		
	卒 業 論 文	8		

禪 学 科

選 択 科 目 (30単位以上) (2年次以降の履修科目)

授 業 科 目	単 位	備 考	授 業 科 目	単 位	備 考
禪 学 研 究	4		現 代 哲 学 概 説	4	
禪 籍 講 義	4		哲 学 史	4	
禪 学 特 講	4	I・II・III・IV	哲 学 演 習	4	
禪 特 講	4		東 洋 思 想 研 究	4	
禪 学 思 想 史	4		宗 教 学 概 論	4	
詩 偈	4		新 宗 教 概 説 道 概 説 宗 教 哲 学	4	58年度は新宗 教概説(輪番 開講)
日 用 経 典	4		宗 教 史	4	
禪 美 術	4		キ リ ス ト 教 史	4	
仏 教 概 論	4		パ ー リ 語 初 級	4	
仏 教 研 究	4		パ ー リ 語 上 級	4	
仏 教 教 理 史 I	2	印 度	パ ー リ 語 演 習	4	
仏 教 教 理 史 II	2	中 国	サ ン ス ク リ ッ ト 語 初 級	4	
印 度 仏 教 史	4		サ ン ス ク リ ッ ト 語 上 級	4	
中 国 仏 教 史	4		サ ン ス ク リ ッ ト 語 演 習	4	
日 本 仏 教 史	4		チ ベ ッ ト 語 (文 法)	4	
印 度 仏 教 文 化 史	4		チ ベ ッ ト 語 (講 読)	4	
仏 教 特 講	4	I・II・III・IV・ V (Iは休講)	中 国 文 学 概 論	4	
仏 典 研 究	4		中 国 文 学 演 習	4	
外 国 語 仏 書 演 習	4		ラ テ ン 語 特 講	4	
各 宗 綱 要 (浄土学) (真言学) (日蓮教学)	4	58年度は浄土 学(輪番開講)	宗 教 教 育	4	
			宗 教 行 政	4	隔年開講(休講)
仏 教 民 俗 学	4		教 化 法	4	
仏 教 美 術	4		青 少 年 教 化 法	4	
青 少 年 問 題 研 究	4		心 理 学 概 論	4	
青 少 年 指 導 演 習	4				
哲 学 概 説	4				

仏 教 学 科

必 修 科 目 (46単位)

	授 業 科 目	単 位	科 目 内 容	備 考
二 年 次	仏 教 概 論	4		
	仏教教理史 I	2	印度仏教教理史	
	仏典演習 I	2	原人論・覚夢抄・七十五法	
三 年 次	禅学実習 I	2	坐禅(坐禅儀・用心記)	
	仏教教理史 II	2	中国仏教教理史	
	印度哲学史	2		
	經典講読 I	2	法句經・四十二章經・遺教 經・心經等・金剛般若經	
	仏典演習 II	2	起信論・三論玄義・四教儀 ・五教章	
	宗典講義 I	4	正法眼藏	
四 年 次	禅学実習 II	2	坐禅・法式・参禅指導	
	演 習 I	4		
四 年 次	經典講読 II	2	法華 ^{壽量品} ・維摩經 普門品・般若經	
	宗典講義 II	4	伝光録	
	演 習 II	4		
	卒 業 論 文	8		

仏 教 学 科

選 択 科 目 (30単位以上) (2年次以降の履修科目)

授 業 科 目	単 位	備 考	授 業 科 目	単 位	備 考
仏 教 研 究	4		現 代 哲 学 概 説	4	
印 度 仏 教 史	4		哲 学 史	4	
中 国 仏 教 史	4		哲 学 演 習	4	
日 本 仏 教 史	4		東 洋 思 想 研 究	4	
印 度 仏 教 文 化 史	4		宗 教 学 概 論	4	
仏 教 特 講	4	I・II・III・IV・ V (Iは休講)	新 宗 教 概 説 新 神 道 概 説 宗 教 哲 学	4	58年度は新宗 教概説(輪番 開講)
仏 典 研 究	4		宗 教 史	4	
外 国 語 仏 書 演 習	4		キ リ ス ト 教 史	4	
各宗(浄土学) 綱要(真言学) 日蓮教学)	4	58年度は浄土 学(輪番開講)	パ ー リ 語 初 級	4	
仏 教 民 俗 学	4		パ ー リ 語 上 級	4	
仏 教 美 術	4		パ ー リ 語 演 習	4	
禪 学 概 論	4		サ ン ス ク リ ッ ト 語 初 級	4	
禪 学 研 究	4		サ ン ス ク リ ッ ト 語 上 級	4	
禪 宗 史 I	2	中 国	サ ン ス ク リ ッ ト 語 演 習	4	
禪 宗 史 II	2	日 本	チ ベ ッ ト 語 (文 法)	4	
禪 学 特 講	4	I・II・III・IV	チ ベ ッ ト 語 (講 読)	4	
禪 特 講	4		中 国 文 学 概 論	4	
禪 籍 講 義	4		中 国 文 学 演 習	4	
禪 学 思 想 史	4		ラ テ ン 語 特 講	4	
詩 偈	4		宗 教 教 育	4	
日 用 経 典	4		宗 教 行 政	4	隔年開講(休講)
禪 美 術	4		教 化 法	4	
青 少 年 問 題 研 究	4		青 少 年 教 化 法	4	
青 少 年 指 導 演 習	4		心 理 学 概 論	4	
哲 学 概 説	4				

6. 随意科目の履修方法

随意科目は各学科とも2・3・4年次で履修することが出来るが、卒業に必要な単位に含めることはできない。

授 業 科 目	単 位	備 考	授 業 科 目	単 位	備 考
日本宗教文化史	4		日 本 語 F	2	(初級・中級)
ド イ ツ 語 F	2		ド イ ツ 語 F L L	2	(初級・中級)
フ ラ ン ス 語 F	2		フ ラ ン ス 語 F L L	2	(初級・中級)
中 国 語 F	2		中 国 語 F L L	2	(初級・中級)
ス ペ イ ン 語 F	2		ス ペ イ ン 語 F L L	2	(初級・中級)
ロ シ ア 語 F	2		ロ シ ア 語 F L L	2	(初級・中級)

※日本語Fは留学生対象の科目で1年次生より履修できる。

7. 再履修科目の履修方法

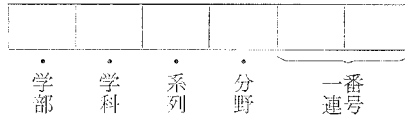
- イ. 再履修とは、前年度履修登録し単位を修得できなかった授業科目（受験しなかった科目を含む）を、翌年度に再度履修することをいう。この場合授業科目名が同じであれば担任教員に変更があっても同一科目の再履修となる。
- ロ. 翌年度に再履修しないで翌々年度以降に履修する場合は、新履修とみなして制限科目数内で履修しなければならない。（休学の場合も同様）
- ハ. 再履修の授業科目は、新履修の授業科目と同時に届出なければならない。
- ニ. 外国語・体育実技・保健体育理論および宗教学Iを再履修する場合は、それぞれの「再履修クラス」（本校で授業を行う）で履修すること。ただし、留年者で同級学年の科目を再履修する場合は正規クラスで履修すること。
- ホ. 1年次生は再履修クラスを履修することはできない。

※コード番号について

1. 授業科目コードの設定方法

科目コードは6桁の数字とし、その各位の数字に次の意味を持たせている。

イ. 科目コードの区分



(a) 学部, 学科番号は学生番号欄での説明のとおり

(b) 系列, 分野区分について

授業科目の区分	系列番号	分野番号
一般教育科目	0	
人文分野		1(必修). 2(選択)
社会分野		3
自然分野		4
基礎教育科目	1	1
外国語科目	2	
第1外国語		
第2外国語		
保健体育科目	4	
体育実技		1
保健体育理論		2
専門教育科目	5	
必修科目		1.2.3
選択科目		5.6.7.8
随意科目	7	
再履修科目	8	
課程・講座科目	9	
必修科目		1
選択科目		2
教科科目		3.4.5.6.7.8

2. 学生番号について

学生番号は8桁の数字とし、その各位の数字に次の意味を持たせている。

イ. 学生番号区分

・ 入 学 年 度	・ (西 曆) 学 籍 異 動	・ 学 部	・ 学 科	一連番号			

(例) 正規学生番号

3	0	1	1	0	0	0	1
・ 83 年 入 学	・ 事 故 な し	・ 仏 教 学 部	・ 禪 学 科	一連番号(1番)			

ロ. 学籍異動の番号について

0—正規の学生

1—留年

2—転部科

3—編入

4—留年をして転部科

転部科・編入をして留年

(例Ⅰ) 留年学生番号

2	1	1	1	0	0	1	1
・ 82 年 入 学	・ 留 年	・ 仏 教 学 部	・ 禪 学 科	一連番号(11番) (留年のつど変わる)			

(例Ⅱ) 編入学生番号 (58年度3年編入)

1	3	1	1	0	0	2	2
・ 履 修 要 項 度 (81)	・ 編 入	・ 仏 教 学 部	・ 禪 学 科	一連番号(22番)			

3. 学部・学科の番号

学部・学科名	学部番号	学科番号	学部・学科名	学部番号	学科番号
仏教学部	1		法学部	4	
禅学科		1	法律学科		1
仏教学科		2	政治学科		2
文学部	2		経営学部	5	
国文学科		1	経営学科		1
英米文学科		2	短期大学	8	
地理学科		3	国文科		1
歴史学科		4	英文科		2
社会学科		5	放射線科		3
経済学部	3				
経済学科		1			
商学科		2			

Ⅳ 履修科目の登録(履修届)とその作成順序

1. 履修科目の登録

毎学年次所属する学科、学年に開講されている授業科目の中から履修を希望する科目を授業時間表より選び、所定の「単位履修届」用紙に必要事項を記入し届出ることにより、通年（または半期）授業を受けることができる。

I) 各年次において履修できる最高授業科目数は次表のとおりとする。

年次	新履修科目数	課程・講座登録者科目数
1年次	14科目	—
2年次	14科目以内	17科目以内
3年次	14科目以内	17科目以内
4年次	1科目以上	

イ. 2年次生以上の再履修科目および随意科目は、上記表の制限外とする。

ロ. 4年次生は最低1科目以上とし、最高制限を設けないが、卒業単位および授業出席に充分ゆとりのある履修をすること。

ハ. 半期科目も1科目とする。

II) 登録上の注意

イ. 履修届は指定された日時に必ず本人が記入捺印し、学生証提示の上提出すること。

(提出しない場合は学業の意志のないものとして処理する。なお指定日時に提出できないものは事前に教務部窓口にご相談すること)

ロ. 履修届の日時・場所等についての詳細は原則として新年度成績発表前に教務部掲示板に発表する。

ハ. 所属する学科以外の授業科目は登録できない。ただし課程・講座等資格取得のため必要な科目は課程・講座科目として登録できるが、その場合は、教職係窓口で受講承認印を受けてから提出すること。

ニ. 履修登録をしない授業科目はたとえ聴講受験しても単位は与えない。

ホ. 授業科目の追加登録は一切認めない。

ヘ. 「単位履修届」用紙の注意事項をよく読んで間違いのないように登録すること。

2. 履修届記入上の注意

授業時間表(例)

	月 曜 日			
	科目名	科目コード	担任	担任コード
一時限	独 語 I G	312201	百 済	879
一時限	保健体育理論(前)	314201	長 浜	993
一時限	保健体育理論(後)	314201		622
三時限	宗 教 学 I	310101	平井(俊)	735
四時限	論 理 学	310203	国 嶋	429
四時限	自然科学概論	310401	大 森	156
五時限	体 育 実 技	314101	大石(武)	141

正しい記入例

曜日	時限	再履	科目名	科目コード	担任	担任コード
(1)	1		独 語 I G	3 1 2 2 0 1	百 済	8 7 9
	2		保健体育理論(前)	3 1 4 2 0 1	長 浜	9 9 3
	3		宗 教 学 I	3 1 0 1 0 1	平井(俊)	7 3 5
	4	○	論 理 学	3 1 0 2 0 3	国 嶋	4 2 9
	5		体 育 実 技	3 1 4 1 0 1	大石(武)	1 4 1

- 楷書体で正確に記入すること。
- 記入の際は、必ず黒または青インクを使用し、捺印の上提出すること。
- 授業時間表のとおり記入すること。
- 半期終了の科目は欄の中央に点線を入れ、上に前期終了科目・下に後期終了科目を記入すること。
- 再履修科目がある場合は、再履欄に○印をつけること。
- 履修届はコンピューターで処理しているため、下記の場合、登録が無効となるので注意すること。
 - 科目名・科目コード・担任名・担任コードが一致しない場合
 - 時限を誤って記入した場合
 - 間違い易い数字で記入した場合(例、0と6・1と7)
 - その他、不明瞭に記入した場合
- 体育実技の記入方法は、時間表に載っている科目コード・担任コードを正しく記入すること。
- 自己の責任において、必ず指定された日・時・場所に提出すること。
- 履修届の本人控を正確に記入し、紛失しないように保管すること。

3. 履修届（時間割）の作成順序

履修要項・授業時間表により、各自がそれぞれの学年次の履修科目を決定する訳であるが、その場合必修科目、選択必修科目、選択科目の順序で決定すること。また一般教育科目・外国語科目・保健体育科目および基礎教育科目は1・2年次で所定の単位を修得し、上級学年に進むに従い専門教育科目、課程・講座科目等を多く履修することが望ましい。

1年次生の場合、次表の順序で履修する科目を決定すると容易である。

順序	授業区分	授業科目（適用）	科目数
1	一般教育科目	宗教学Ⅰ（必修）	1
2	外国語科目	第1外国語，第2外国語（選択必修）	4
3	保健体育科目	保健体育理論（半期），体育実技（必修）	2
4	基礎教育科目	基礎仏教学，仏書解説Ⅰ（必修）	2
5	一般教育科目	人文分野，開講科目の中から2科目を選択必修	2
		社会分野，開講科目の中から2科目を選択必修	2
		自然分野，開講科目の中から1科目を選択必修	1
1年次履修制限科目数			14

V 試験および成績評価

1. 定期試験

- イ. 前期で終了する授業科目の定期試験は7月に、後期および通年の授業科目の定期試験は1月ないし2月に実施される。
- ロ. 受験にあたっては、正規の手続きを経て登録した授業科目であること。
- ハ. 筆記試験のかわりにレポートの提出を課せられた場合は、主題、枚数、提出日時、提出先等をよく確認の上提出すること。なお、指定された日時に遅れた場合は一切受理しない。
- ニ. 試験時間割は、原則として平常の講義の時限とし、時間および教場等については掲示で発表する。
(注) 試験場は平常の授業教場と異なる。特に集中試験(同一科目を一括して行う試験)は曜日、時限とも変わるので試験時間および教場割等掲示に充分注意すること。

2. 中間試験

授業科目によって担任者が独自に行う試験(レポート提出を含む)のことをいう。従って試験は平常の授業に準じて行う。

3. 追・再試験

I 追試験

- イ. 追試験は、やむを得ない事由があり定期試験(レポート提出を含む)を欠試した場合受験することができる。その場合、欠試者は所定の欠試届にその事由を記し、自分の全ての試験終了後ただちに届け出ること。(締切日は掲示板参照)
- ロ. 追試験料は徴収しない。

II 再試験

- 1・2・3年次生については、再試験は一切実施しない。
卒業年次生に限り下記により実施する。
- イ. 卒業年次に履修登録した科目の定期試験を受験し、不合格となった科目は願い出により受験することができる。
- ロ. 受験料は1科目500円とする。

III 体育・外国語科目・その他

- イ. 体育実技・禅学実習・その他実験実習を伴なう科目は、追・再試験ともこれを行

わない。

- ロ. 外国語科目についても追・再試験を行わない。ただし、定期試験を欠試した者は当該科目試験終了後一週間以内に担任教員に申し出て指導を受ける。

4. 成績評価・単位認定

- イ. 定期試験の成績は、優（100点～80点）・良（79点～70点）・可（69点～60点）および不可（59点～0点）とし、可以上を合格、不可は不合格とする。
- ロ. 所定の授業時間数の3分の2以上授業に出席し、合格の成績評価を得た授業科目については規定の単位を認定する。
- ハ. 追試験の成績評価は定期試験に準ずる。
- ニ. 再試験（4年次生のみ）の成績評価は70点以下とする。

5. 進級基準

◎正規進級

上級学年に進級する場合は、下記の単位数の取得を要する。

- イ. 1年次から2年次に進級する場合、卒業所要単位のうち30単位以上。
- ロ. 2年次から3年次に進級する場合、卒業所要単位のうち60単位以上。
- ハ. 3年次から4年次に進級する場合、卒業所要単位のうち90単位以上。

ただし、90単位以上の者でも、一般教育科目・保健体育科目・外国語科目の必要単位数を全て取得していること。

◎注意進級

正規の進級基準には達しないが、教育的配慮から進級を認める。ただし注意進級が再度つづく場合には、取得単位の不足から、4年間で卒業することが困難となるので、今後十分に自戒して所定の単位数を取得するよう努めることが必要である。

- イ. 1年次から2年次に注意進級する場合、卒業所要単位のうち、29～20単位までとする。
- ロ. 2年次から3年次に注意進級する場合、卒業所要単位のうち、59～50単位までとする。
- ハ. 3年次から4年次に注意進級する場合、卒業所要単位のうち、90単位以上を取得するも、その内一般教育科目・保健体育科目・外国語科目の不合格単位数の合計が16単位までとする。ただし17単位以上は留年とする。

6. 受験者心得

- イ. 指定された試験場（教場）で受験すること。
- ロ. 学生証を所持しない学生は、いかなる理由があっても受験できない。また、学生証は

監督者が見やすいように通路側に提示しておくこと。

ハ. 試験開始より30分以上遅刻した者は受験できない。また開始後30分を経過するまで退場できない。

ニ. 答案の作成はペン書き（ボールペン可）を原則とする。とくに、学部・学科・学年・番号・氏名は必ずペン書きにし、解答にかかる前に記入すること。

ホ. 次の場合は退場を命じ、その答案を無効とする。

(1) 私語や態度の不正なもので注意しても改めないとき

(2) 許可なく物品・教科書・ノート類を貸借したとき

(3) 監督者の指示に従わないとき

ヘ. 次の場合には、その答案を無効とする。

(1) 無記名のもの

(2) 配布された答案用紙以外のものを用いたとき

(3) 指定された場所に提出しないとき

ト. 答案用紙は指定の枚数だけ配布し、原則として書き損じても再交付しない。

チ. 受験中に不正行為があって、当該教授会が不正行為と認定したときは、学則第57条により懲戒する。なお、懲戒は全学に公示する。

リ. 以上のほか、試験場内の秩序維持はすべて監督者の指示による。

Ⅵ クラス制およびクラス主任

- イ. 1・2年次は学科毎にクラス制をとっている。
- ロ. クラスにはクラス主任（教員）が1名ずつおり、学生の学習指導、生活相談等に当たっているから、これらのことについては遠慮なく相談されたい。

Ⅶ 教職課程・資格講座

仏教学部で開講されている資格取得の課程・講座は、教職課程・学校図書館司書教諭・博物館学(学芸員)・社会福祉主事の1課程3講座である。

教職課程は、教員資格取得のためのもので、本学において教職課程の所定単位を修得したもには、中学校・高等学校教諭の各免許状が与えられる。

学校図書館司書教諭・学芸員・社会福祉主事の各講座は、学校教育とならんで重要な社会教育の代表的な施設である図書館、博物館、青少年教育施設などの専門職員となる有資格者を養成するために設けられているものである。

課程・講座の履修希望者は、1年次の秋（11月中旬）にガイダンスを開催するので、2年次から資格取得のため科目履修を予定している者は、このガイダンスに出席し「教職課程・資格講座受講の手びき」をもらうこと。（授業科目の講義内容は履修要項の講義内容を参照すること）

詳細については掲示板上で発表する。

開講されている課程・講座

課程・講座名	
教 職 課 程	2年次より
学校図書館司書教諭講座	〃
博 物 館 学 講 座	〃
社 会 福 祉 主 事 講 座	〃

○課程・講座の履修は実習の関係上、3・4年次からの登録による履修は認めない。

Ⅷ 事務取り扱いについて

1. 成績発表・成績証明書について

- イ. 前期終了科目・後期および通年授業科目の定期試験の結果は書類で発表する。
- ロ. 成績の質疑については、成績発表後5日以内に教務部⑨番窓口にて相談すること。ただし、評価の質疑については直接担任教員に申出て相談すること。
- ハ. 成績発表を受けるときは必ず学生証を持参すること。
- ニ. 成績証明書は卒業年度生以外は原則として発行しない。

2. 授業時間について

授業時間は次表のとおりである。

時 限	第1時限	第2時限	第3時限	第4時限	第5時限
時 間	9:00～ 10:30	10:40～ 12:10	12:50～ 14:20	14:30～ 16:00	16:10～ 17:40

3. 事務室の事務受付時間について

- イ. 事務室の事務受付時間は、9時より16時30分（土曜日は12時）までとする。ただし、昼食休憩時間は12時～13時とし、この時間は事務受付を休止する。
- ロ. 履修届提出・成績発表・各申込等の受付は9時30分より16時までとする。

4. 休講について

- イ. 休講は担任教員より連絡あり次第、休講掲示板（教務部事務室前ロビー）に掲示する。したがって、教場の黒板に書いて休講の連絡はしない。始業時間より30分以上経過しても連絡のない場合は、教務部⑦番窓口申し出てその指示を受けること。
- ロ. 運輸機関のストライキによる休講措置については、午前7時現在国電（山手，中央，京浜東北）もしくは東急がストを行っている場合の授業は全面休講とする。

5. 掲示について

学生に対する公示・告示および学習上周知を要する事項は、すべて掲示板に発表するので、登校・下校の際は、必ず掲示板を見ること。また、学生個人に対する伝達事項も、掲示または、郵便・電話で連絡するので遅滞なくその指示に従うこと。

掲示板の使用区分

- イ. 第1 掲示板（7号館前）
 公示・告示・その他連絡事項
- ロ. 第2 掲示板（6号館横）
 学部別連絡事項・その他
- ハ. 第3 掲示板（6号館横）
 教職・その他
- ニ. 第4 掲示板（6号館横）
 研究室専用

6. 問い合わせ

事務室への電話による質問（行事予定、休講、授業、学籍、試験、成績、その他）は、間違いを生じやすく事務に支障も生ずるので一切応じない。必要があるときは、必ず登校のうえ、掲示板を見るか、関係事務室窓口で問い合わせること。

Ⅸ 届書・願書について

(教務部扱いのもの)

種 類	要 領	必要書類	本人印	保証人印	取扱窓口	
届 書	単位履修届	年度初頭の指定する期日に、各年度に修得しようとする授業科目(単位)を必ず届け出ること。	所定用紙あり	要	不要	掲示
	欠 試 届	やむを得ない事情で欠試した時は届出用紙に理由を書き、本人履修全科目の試験終了後ただちに届け出ること。(締切日は掲示参照)	所定用紙あり	不要	不要	(9)
	卒業論文論題届 (仏教・文学部のみ)	各学部掲示板にて指示するので、指定期間内に指導教授の承認印を受け、届け出ること。	所定用紙あり	要	不要	(6)
	改 氏 名 届	変更後1週間以内に届け出ること。	所定用紙あり 戸籍抄本1通 添付	要	不要	(5)
	本籍地変更届	変更後1週間以内に届け出ること。	所定用紙あり 戸籍抄本1通 添付	要	不要	(5)
	保証人変更届	変更後1週間以内に届け出ること。	所定用紙あり 在学誓書(保証書)添付	要	要	(5)
	保証人住所変更届	変更後1週間以内に届け出ること。	所定用紙あり	要	不要	(5)
死 亡 届		所定用紙あり 死亡診断書添付	/	要	(5)	
願 書	休 学 願	病気その他の理由で引き続き2か月以上修学することができないときは、保証人連署の上願い出て休学の許可を得なければならない。	所定用紙あり 傷害・疾病による場合は医師の診断書添付	要	要	(5)
	復 学 願	願い出により休学した者が復学する場合は、毎学年の始めとし、保証人連署の上願い出て復学の許可を得なければならない。「復学願」の提出は4月初旬までとする。	所定用紙あり 傷害・疾病による休学をした場合は医師の通学可能である証明書添付	要	要	(5)
届 書	退 学 願	傷病その他やむを得ない理由で退学する場合はその理由を付し、保証人連署をもって願い出て許可を得なければならない。	所定用紙あり 学生証添付	要	要	(5)
	転部(科)・転学願	事前に教務部に相談すること。	所定用紙あり (転学はなし)	要	要	(7)

X 各種証明書取扱い窓口

証 明 書 名	取 扱 窓 口	料 金
成 績 証 明 時	教務部④番	一通 100円 (英文証明書) 一通 300円
卒 業 (見 込) 証 明 書		
学 士 証 明 書		
教員免許状取得見込証明書		
単 位 修 得 証 明 書 (教職, 司書教諭, 学芸員, 社会教育, 社会福祉)		
一 般 教 養 科 目 修 了 (見 込) 証 明 書		
満 期 退 学 (見 込) 証 明 書 (博 士 後 期)	教務部⑥番	
修 了 (見 込) 証 明 書 (修 士)		
修 士 証 明 書	教務部⑤番	
在 籍 証 明 書 (中途退学者に限る)		
人 物 考 査 書	就 職 部	
健 康 診 断 証 明 書	医 務 室	
在 学 証 明 書	学 生 部	無 料
学 割		無 料
通 学 証 明 書		無 料

※ 経理部前備付けの申込用紙に必要事項を記入し、手数料分の証紙を貼付（郵送料は現金で経理部窓口に納入）の上、取扱い窓口に申し込むこと。

発行は原則として3日後。ただし教務部取扱い証明書は、6月下旬より10月中旬と3月は大変混雑が予想されるので、掲示に注意し、充分余裕をもって申し込むこと。

講 義 內 容

講義内容目次

一般教育科目

人文分野

宗教学Ⅰ(桜井 秀雄) ……………	33
宗教学Ⅰ(岡部 和雄) ……………	33
宗教学Ⅰ(松本 皓一) ……………	33
宗教学Ⅰ(再クラス)(奈良 康明) ……	33
宗教学Ⅰ(再クラス)(松本 皓一) ……	34
哲学(円谷 裕二) ……………	34
論理学(国嶋 一則) ……………	34
文学(篠原 寿雄) ……………	34

社会分野

法学憲法(大久保治男) ……………	35
経済学(有井 行夫) ……………	35
社会学(角家 文雄) ……………	35

自然分野

自然科学概論(丹羽小弥太) ……………	35
人類学(中島 寿雄) ……………	36
心理学(谷口 泰富) ……………	36

外国語科目

英会話(Pratt, T. C. Dean) ……………	37
------------------------------	----

保健体育科目

体育実技 ……………	38
------------	----

随意科目

日本宗教文化史(脇本 平也) ……………	42
ドイツ語F(吾妻雄次郎) ……………	42
ドイツ語FLL(初級)(野島 利彰) ……	42
ドイツ語FLL(中級)(小林佳世子) ……	42
フランス語F(前田 祝一) ……………	42
フランス語FLL(初級) (マドレーヌ・マルタン) ……	43
フランス語FLL(初級)(松岡 宏一) ……	43

フランス語FLL(中級) (マドレーヌ・マルタン) ……	43
中国語F(前山加奈子) ……………	43
中国語FLL(初級)(果 荃 英) ……	43
中国語FLL(中級)(羅 漾 明) ……	44
スペイン語F(佐藤玖美子) ……………	44
スペイン語FLL(初級) (ホワン・ナバロ) ……	44
スペイン語FLL(中級) (ホワン・ナバロ) ……	44
ロシア語F(杉山 秀子) ……………	44
ロシア語FLL(初級) (タチャーナ・バリソヴナ・野村) ……	44
ロシア語FLL(中級) (タチャーナ・バリソヴナ・野村) ……	45
日本語F(初級)(留学生対象)(杉山秀子)	45
日本語F(中級)(留学生対象)(杉山秀子)	45

基礎教育科目

基礎仏教学(石井 修道) ……………	46
基礎仏教学(石川 力山) ……………	46
基礎仏教学(吉津 宜英) ……………	46
仏書解説Ⅰ(伊藤 秀憲) ……………	47
仏書解説Ⅰ(峯岸 孝哉) ……………	47
仏書解説Ⅰ(原田 弘道) ……………	47
仏書解説Ⅱ(岡部 和雄) ……………	47
仏書解説Ⅱ(池田 魯参) ……………	47
仏書解説Ⅱ(皆川 広義) ……………	48
仏教語解説(新井 勝龍) ……………	48
仏教語解説(伊藤 隆寿) ……………	48
仏教語解説(石川 力山) ……………	48

専門教育科目

禅学概論(鏡島 元隆) ……………	49
禅学思想史(峯岸 孝哉) ……………	49

禪宗史Ⅰ(田中 良昭)……………49	仏教特講Ⅱ(納富 常天)……………57
禪宗史Ⅱ(伊藤 俊彦)……………50	仏教特講Ⅲ(鎌田 茂雄)……………58
禪学実習Ⅰ(酒井 得元)……………50	仏教特講Ⅳ(太田 久紀)……………58
(河村 孝道)……………50	仏教特講Ⅴ(佐藤 達玄)……………58
(小坂 機融)……………50	外国語仏書演習(平井 俊栄)……………58
禪学実習Ⅱ(鈴木 格禅)……………50	パーリ語初級(東元 慶喜)……………58
禪学講義(小坂 機融)……………50	パーリ語上級(東元 慶喜)……………58
禪学演習Ⅰ(黒丸 寛之)……………51	パーリ語演習(東元 慶喜)……………59
禪学演習Ⅱ(河村 孝道)……………51	サンスクリット語初級(奈良 康明)…59
宗典講読Ⅰ(新井 勝龍)……………51	サンスクリット語上級(奈良 康明)…59
宗典講読Ⅱ(若月 正吾)……………51	サンスクリット語演習(袴谷 憲昭)…59
宗典講義Ⅰ(酒井 得元)……………51	チベット語(文法)(袴谷 憲昭)……………59
宗典講義Ⅱ(光地 英学)……………52	チベット語(講読)(山口 瑞鳳)……………60
日用經典(桜井 秀雄)……………52	ラテン語特講(佐藤秋美子)……………60
禪学特講Ⅰ(原田 弘道)……………52	宗教学概論(松本 皓一)……………60
禪学特講Ⅱ(黒丸 寛之)……………52	宗教史(松本 皓一)……………60
禪学特講Ⅲ(伊藤 俊彦)……………52	キリスト教史(秀村 欣二)……………60
禪学特講Ⅳ(鈴木 格禅)……………53	新宗教概説(洗 建)……………61
禪 特 講(椎名 宏雄)……………53	各宗綱要(浄土学)(戸松 啓真)……………61
詩 偈(山口 晴通)……………53	仏教美術(林 良一)……………61
禪 美 術(竹内 尚次)……………53	仏教民俗学(和田 謙寿)……………61
仏教概論(山内 舜雄)……………54	宗教教育(桜井 秀雄)……………62
印度仏教史(袴谷 憲昭)……………54	教化法(皆川 広義)……………62
中国仏教史(佐藤 達玄)……………54	青少年教化法(皆川 広義)……………62
日本仏教史(山内 舜雄)……………54	青少年問題研究(和田 謙寿)……………62
印度仏教文化史(奈良 康明)……………54	青少年指導演習(和田 謙寿)……………63
仏教教理史Ⅰ(印度)(平井 俊栄)……………55	哲学概説(齋藤 知正)……………63
仏教教理史Ⅱ(中国)(田中 良昭)……………55	現代哲学概説(山下 太郎)……………63
印度哲学史(田上 太秀)……………55	哲学史(中村友太郎)……………63
經典講読Ⅰ(石川 力山)……………55	哲学演習(齋藤 知正)……………64
經典講読Ⅱ(岡部 和雄)……………56	中国文学概論(飯田 利行)……………64
仏典演習Ⅰ(佐藤 達玄)……………56	中国文学演習(飯田 利行)……………64
仏典演習Ⅰ(吉津 宜英)……………56	東洋思想研究(船津 富彦)……………64
仏典演習Ⅱ(池田 魯参)……………56	心理学概論(篠原 英寿)……………64
仏典演習Ⅱ(伊藤 隆寿)……………57	禅学研究(青龍 宗二)……………64
仏典研究(岡部 和雄)……………57	禅籍講義(青龍 宗二)……………65
仏教研究(田上 太秀)……………57	

一般教育科目

人文分野

宗 教 学Ⅰ

桜井秀雄

宗教とは何であるかを究明し、人間・文化・社会とのかかわりあいを知るための方法論にもふれながら、宗教の諸形態を概観し、そこにみられる宗教現象の諸相をとらえ、仏教学や禅学参究上、不可欠の基礎研究に資することになろう。

〔教科書〕 『宗教学ハンドブック』（世界書院）

〔参考書〕 駒沢大学仏教学研究室編『宗教学Ⅰ』（更生社）

宗 教 学Ⅰ

岡部和雄

仏教学を専攻する学徒にとっても、他の諸宗教に関する理論や歴史について、基本的な理解をもつことは必要不可欠である。日本人に身近かな宗教現象の例をあげながら、人間にとって宗教がどのような意味をもっているかを明らかにしたい。

〔教科書〕 『宗教学ハンドブック』（世界書院）

〔参考書〕 『宗教学Ⅰ』（更生社） 『世界の宗教』（大明堂）

宗 教 学Ⅰ

松本皓一

人間生活における宗教の意味を明らかにし、その上に立つ広い視野から仏教理解への基盤を培う。

〔教科書〕 『宗教学ハンドブック』（世界書院）

〔参考書〕 『宗教学Ⅰ』（更生社）

宗 教 学Ⅰ（再クラス）

奈良康明

人間生活における宗教、仏教の意味と機能、構造をあきらかにしてゆきたい。出来るかぎり、現代の私たちの生活とのかかわりの中で諸テーマを考える。

〔教科書〕 『宗教学ハンドブック』（世界書院）

宗 教 学Ⅰ（再クラス）

松 本 皓 一

人間にとって宗教とは何か。その社会的意味を明らかにし、現在に生きるものの立場から宗教を考えてみる。

〔教科書〕 『宗教学Ⅰ』（更生社）

〔参考書〕 『宗教学ハンドブック』（世界書院）

哲 学

円 谷 裕 二

人間は生れつき、知識の営みをするように定められている。人間のもつどんな知識でも思想を表わし、人間はその思想によって生きている。しかしわれわれの日常生活では、自分がどのような思想によって生きているかの自覚がない。それは、伝統的思想に支配されているからである。われわれが「よりよく生きる」ことを願うならば、一定の目標を定めなければならず、そのためには自覚した思想をもたなければならない。哲学は、古代から現代に至るまでの自覚された思想を研究し、さらにそれを自らの生きるための思想とするものである。また大学における学問研究の基礎知識の習得にも努める。

〔教科書〕 『哲学思想の歴史』（公論社）

論 理 学

国 嶋 一 則

論理学は、正しく思考するためには「いかに思考すべきか」を教える科学である。ここでいう思考は、推理という型の思考である。われわれは、学問する場合はむろんのこと日常生活においても、たえず思考しているが、必ずしも正しく思考しているとはかぎらない。したがって、論理学によって正しく思考するための法則を学ばなければならない。さらに、現代の科学技術や電算機の基礎になっている論理法則の理解や習得をする。

〔教科書・参考書〕 その都度指示する。

文 学

篠 原 寿 雄

禅語録や仏教経典を読む基礎知識を学ぶことを主眼にしたい。そのために漢文文献の訓読法、その味い方などを学習する。また、唐宋代の口語（俗語）学習にも留意して、将来の禅語録や『正法眼蔵』研究に資したい。

〔教科書〕 随時指示したい。

社 会 分 野

法 学 憲 法

大久保 治 男

法の常識は善良な市民としての必須条件である。技術革新、大衆社会、情報化社会、消費革命など政治・経済・文化の現代社会の特質をふまえつつ、社会が繁栄し、各個人と全体との調和のために最大公約数としての法秩序をいかに合目的に運用していかねばならないかを多角的に分析し、これらの背景にもなっている法史的、法哲学的、法社会学的問題にもふれながら法学の基礎理論を構築しつつ、民事法制、刑事法制等の全体系を鳥瞰する。さらに関心のあるアップ・ツー・デイトの事例にまで具体的に展開して、受講生に法学に対する興味と意欲を起こさせるように配慮する。尚、時間があれば宗教関係法制にまで展開する予定。

〔教科書〕 大久保治男『法学概論』（芦書房）（価格未定）

経 済 学

有 井 行 夫

国際貿易摩擦や不況、インフレーション、国家財政の危機など、現代の問題に關説しつつ、私達の全生活に占める経済過程の意味についてお話します。経済学の発生史における宗教——この場合とくにキリスト教ですが——の果たした役割、宗教的発想と社会科学の発想の相違と関連などについても思うところを話してみたいと思います。

〔教科書〕 特になし。

〔参考書〕 『資本主義の原理と歴史』（青木書店）

社 会 学

角 家 文 雄

社会学の基礎理論と教育社会学、マス・コミ社会学を講義する。

自 然 分 野

自 然 科 学 概 論

丹 羽 小 弥 太

自然科学発祥以来今日までの進歩発展の歴史を展望し、科学の本質、科学と人間社会の係わり合いに論及する。重点項目としては ①文明の発祥 ②古代ギリシアの科学 ③中世の暗黒時代と科学 ④ルネサンス、近世の開幕 ⑤近世から現代へ ⑥現代科学の特質 ⑦科学の進歩と人類の将来をあげておく。

〔教科書〕 不要。

〔参考書〕 『自然科学概論』（裳華房） ¥ 1,400

人 類 学

中 島 寿 雄

人類学の範囲はきわめて広いので、散漫な講義になることを避け、その範囲のほとんどを被いうる「性」にしぼって講ずる。

〔教科書〕 使用しない。

〔参考書〕 講義中随時指示する。

心 理 学

谷 口 泰 富

本講においては、以下のことがらについて考えていく。

1. 心理学の意義・目的・方法
2. 人間と環境の認知
3. 学習理論
4. 人格

〔教科書〕 『心理学概説』（八千代出版）

外 国 語 科 目

英 会 話

Pratt, T. C. Dean

English conversation necessary for everyday life. Native speaker word-group sound. Also discussion on current life, Japan and world.

保健体育科目

実技種目の概要及び指導教員名

一年次生種目〈玉川校舎〉

室内球技（玉川体育館） 宮沢栄作・長浜友雄・牧野茂・
光永吉輝・田中佳孝・村松誠・
秋田浩一

バレーボール、バスケットの基礎技術の習得とともに、ゲームにより、その競技を理解する。

服装：一般的運動服装，上履用シューズ

体 操（玉川体育館） 三 幣 晴 三

マット、鉄棒などを中心に、初心者を対象とした遊戯的内容から出発し、段階的に技を習得する。

服装：一般的運動服装，体操シューズが望ましい。

トレーニング（玉川体育館） 高橋俊介・館岡儀秋
秋田浩一・武藤幸政

個人の体力差に応じたトレーニングプランを作成し、主に最新のトレーニング器械を使用した体力トレーニングを行う。このトレーニングの目的は体力の増進、内臓器官の強化である。

服装：一般的運動服装，上履用シューズ

柔 道（玉川体育館） 光 永 吉 輝

初心者を対象として基本技能（受け身）、応用技能（投げの形）（固の形）等の練習を行う。服装は原則として柔道衣。

剣 道（玉川体育館）

上 山 智 身

剣禅一致の精神に基き、初心者を対象として次の順序で実施する。

1. 基本動作
 2. わざ
 3. 懸り稽古、互格稽古
 4. 試合稽古
- 服装・試験については最初の授業において説明する。

空 手 道（玉川体育館）

大石武士・高橋俊介

拳禅一致の精神に基き、初心者を対象として下記の順序で実施する。

1. 基本技（空気を相手に、受、突、打、蹴技の反復練習）
2. 形（基本技の受、突、打、蹴を合理的に構成したものを空気を相手に行う）
3. 護身術
4. 約束基本組手（基本技で取得した、受、突、打、蹴技を実際に相手をおいて行う簡単な約束した組手）

服装は原則として空手道衣着用のこと。

相 撲（玉川体育館）

館 岡 儀 秋

基本技（攻の型・守りの型）の練習を主に、併せて応用技の習得を行い、心・技・体三則の本義を理解させる様指導する。

土俵マットを使用する。服装は海水パンツ等の上に相撲パンツを着用する。

陸 上 競 技（玉川グラウンド）

森本葵・館岡儀秋

駒大式四種競技（100米、長距離、砲丸投、走高跳）を行い、得点制とする。

服装はランニングパンツが望ましいが、普通のトレパンでも可。なお、スパイクの着用は原則として認めない。

ソ フ ト ・ ボ ー ル（玉川グラウンド）

太田誠・森本葵

基本技能を中心として毎時間ゲームを行う。服装はトレシャツ、トレパン。グラブ、ミットは貸与する。

サ ッ カ ー（玉川グラウンド）

原山良勁・田中佳孝
秋田浩一

基本技術を中心として練習し、毎時間ゲームを行う。服装はショートパンツと厚い靴下を着用すること。

ハンド・ボール（玉川グラウンド）

村 松 誠

パス、シュート等基本技術を中心にゲームを行う。服装は、トレジャツ、トレパン、運動靴を用意すること。

テ ニ ス（玉川グラウンド）

長浜友雄・牧野茂・田中佳孝
浅野鉦世・嶋田美津子

ゲーム（ダブルス）中心の授業を行う。服装は、一般的運動服装（白のトレーニングパンツまたは短パンツが望ましい）とするが、靴はテニスシューズを用意すること。

卓 球（玉川校舎）

長浜友雄・原山良勤・
嶋田美津子

ゲーム（シングル、ダブルス）中心の授業を行う。服装は体育時のもので良い。室内履シューズを用意すること。ラケットは貸与する。

太 極 拳（玉川体育館）

大 石 武 士

太極拳の基本的な動きを習得し、精神・身体を健康を増進する。服装その他の注意は第一時限目に説明する。

実 技 教 場 案 内

玉川体育館・グラウンド・校舎：世田谷区宇奈根 1-1-1（学生手帳を参照）

TEL (709) 0717

再 履 修 生 種 目〈本 校〉

室 内 球 技（本校体育館）

宮沢栄作・原山良勤

基礎技術の習得とに併せて、ゲームにより、その競技を理解する。（バレーボール、バスケットボール、その他）

服装：一般的運動服装，上履用運動靴。

空 手 道（本校第二体育館）

大 石 武 士

拳禪一致の精神に基づき、初心者を対象として実施する。服装は原則として空手道衣着用のこと。

剣 道（本校第二体育館）

上 山 智 身

剣禪一致の精神に基づき、初心者を対象として実施する。服装・試験については最初の授業において説明する。

実 技 教 場 案 内

- (1) 本校体育館：本学内，男子更衣は三階 東側スタンド。（ステージに向い左側）女子は三階西側の更衣室。（ステージに向い右側）

TEL (418) 9517・9213

- (2) 本校第二体育館：本学内，相撲道場の隣，一階は柔道場，二階は剣道・空手道場。更衣室は各階にある。

TEL (418) 9201

随 意 科 目

日本宗教文化史

脇 本 平 也

——宗教思想論争——昨年度に引き続き、日本における宗教思想の対立・論争の事例をいくつか取り上げ、文化史的背景を考慮しながらなめてみる。原史料を読む場合には、演習形式を取り入れて学生諸君にも分担を課することがある。

〔参考書〕 適時指示する。

ド イ ツ 語 F

吾 妻 雄次郎

主として2年次までドイツ語を学んだ学生を対象に、Bredel, Hermlin, Seghers, Wolf 等の現代作家の短篇を通じて、読解力を養い、ナチ支配下のドイツの作家たちが、現実をどのように捉え、どのように将来に希望を繋いでいたかを識る緒にしたい。

〔教科書〕 教材は授業の際に指示する。

ド イ ツ 語 FLL (初級)

野 島 利 彰

耳と口と眼を使って現代の生きたドイツ語を学ぶことを目的とする。正しい発音および基本的な文型や語彙を身につけ、日常会話の能力を養うようにしたい。

ド イ ツ 語 FLL (中級)

小 林 佳世子

活字としてのドイツ語よりも、音声としてのドイツ語に触れ、意志の疎通の基本的な条件である聴き取り能力を養成することを主眼とする。出来るだけ多様なテープを聞き、また、ビデオテープをも用いて様々な生きたドイツ語に親しめるようにしたい。なお、受講者は1年次のドイツ語(1G・1R)を終えていることが望ましい。

フ ラ ンス 語 F

前 田 祝 一

「フランス女流文学史」(19世紀)。主として女流詩人の詩を中心に読み、講義する。
〔教科書〕 プリントを配布する。

フランス語 FLL (初級)

マドレーヌ・マルタン

テキストを使ってやさしい会話、初めの時間にテキストの説明をし、次の時間にテキストに従って会話をする。

ーテキストの復習をよくすること。

ー間違いを恐れずに活発な発言をのぞむ。

ー松岡先生の会話のクラスを併せて履修することがのぞましい。

〔教科書〕 教場で指示する。

フランス語 FLL (初級)

松岡 宏一

L L部に備えてある HACHETTE 社の「LE FRANÇAIS ET LA VIE」を使用して講義をすすめます。耳の訓練に重きをおき、こちらの設問に適宜な反応を示せるよう指導いたします。この教科書にはスライドと音声がついておりますのでこれを十二分に活用し、効果をあげたいと念じております。

生徒諸氏に望みたいことは、L Lだけではなく、同時に他のフランス語正課にも出席していただきたいです。

〔教科書〕 「LE FRANÇAIS ET LA VIE」(HACHETTE)

フランス語 FLL (中級)

マドレーヌ・マルタン

「仏語 FLL」(初級)を終えた者、またはそれと同程度の学力のある者を対象に、それ以上の会話の力を修められるよう指導する。

〔教科書〕 教場で指示する。

中国語 F

前山 加奈子

基礎的な文法を修得した3年次生以上を対象とします。現代作家の短篇を教材にして、中国語の特長をおさえ、文法的にも更に深めていきたい。又、作品を通して中国社会への認識を深めるようにしたい。

〔教科書〕 丁玲、列心武などの作品、開講時に教場で指示、配布します。

中国語 FLL (初級)

果 荃 英

中国語初級を終えたものを主たる対象とし、正確な発音をマスターし、やさしい中国語の会話を習得することを目的とする。視聴覚教材(ビデオテープ)を使用して楽しく授業を進めたいと思う。

〔教科書〕 教場にて視聴覚教材のコピーを配布する。(無料)

中国語FLL(中級)

羅 濛 明

中国語FLL初級を終えたもの、又はそれに準ずるもの(正しい発音をマスターしたもの)を対象とする。高度な中国語会話力を身につけることを目的とする。映画や放送録音等を教材として使用し、学生諸君と楽しく勉強を進めたいと思う。

〔教科書・参考書〕 教室で指示します。

スペイン語F

佐 藤 玖美子

この授業は、1・2年で習得した知識を更に発展、深化させることを目指しており、特に講読力と作文力の養成に力を入れたいと思う。

テキストは受講者の程度によって、適当なものを選ぶ予定。

スペイン語FLL(初級)

ホワン・ナバロ

初心者を対象に、スライドを見ながらやさしい日常会話を勉強します。

スペイン語FLL(中級)

ホワン・ナバロ

前年度L.L初級を終えたもの、またはそれと同等の学力を身につけているものを対象とする。

ロシア語F

杉 山 秀 子

本講座はロシア語初級課程を終えたものを主たる対象とする。ロシア語の読解力と表現力の養成を目標とする。名文といわれる様々なスタイルのロシア語の文章に接することにより、ロシア語のもつメリハリのある美しさと力強さを味わっていただきたいと思う。

〔教科書〕 教場にて指示します。

ロシア語FLL(初級)

タチャーナ・バリーソヴナ・野村

テキストに従いやさしいロシア語の日常会話を学習する。正しいロシア語の発音やイントネーションを練習し、簡単なロシア語の表現力を身につけることを目的とする。

〔教科書〕 『ロシア語を話しましょう』を使用する。

ロシア語 FLL (中級) タチャーナ・バリーソヴァ・野村

初級課程で得た知識を土台に更にロシア語独特な生の言いまわしや、日常会話の平均的速度になれてもらい、自由な会話への第一歩となる様に心がけていきたい。

〔教科書〕 教場にて指示。

日本語 F (初級) (留学生対象) 杉山 秀子

本講座は昭和57年度に初めて設置された留学生のための日本語の随意科目である。日常生活における意志伝達にはさほど苦労しないが、若干こみいった内容の聴きとりや説明、正しい表記・用語法などに困難を感じている留学生諸君は是非受講されることが望ましい。なお、受講者の日本語のレベルもバラバラであると予想されるので、授業の最初に簡単なアンケートとテストに答えてもらい、その後に細目について詳しく説明する。授業では最新の日本語教育用のビデオやスライド等を駆使しつつ、現代生活に密着した正しい日本語を修得することを旨としていきたい。

〔教科書〕 面談の上決定。

日本語 F (中級) (留学生対象) 杉山 秀子

日本語 F の初級課程を終えたもの、あるいはそれと同等の学力を有する留学生を対象とし、日本語での発表能力や、表記・表現法をさらに高め、深化させていく。授業では適時、新聞・雑誌の読みあわせや、NHKの教養番組の聴きとり、ニュース解説、日本映画等のビデオ録画をとりあげて、偏りのない日本語の総合力を身につけることをめざしたい。

――一週間に一度は必ず小テストをし、レポートの提出を義務づけるので授業はなるべく休まないこと。

〔教科書〕 教場にて指示します。

基礎教科目

基礎仏教学

石井 修道

基礎仏教学とは、「一仏両祖伝」とも通称しているように、仏教を開いた釈尊と日本曹洞宗の高祖道元禪師と太祖瑩山禪師の伝記を学ぶものである。さまざまな参考書があるが、現在の研究状況を紹介しながら、基本的な文献を読むことを中心に講義を進めていきたい。

〔教科書〕 プリント配布

基礎仏教学

石川 力山

仏教の開祖である釈尊と、曹洞宗において両祖と称される道元禪師・瑩山禪師の「一仏両祖」の生涯と思想について講義する。まず釈尊の伝記を整理し、仏教の基本的な教理を概説する。次に、『三大尊行状記』の道元禪師伝、『諸嶽開山二祖禪師行録』の瑩山禪師伝を読みながら両祖の伝説と思想について考える。仏教学の学習には漢文の読解力が必要不可欠であり、両祖の伝記を原文で読むことによってあわせてその力を養い、さらに仏教学や禅学研究の方法や研究態度についても言及したい。

〔教科書〕 プリント使用。

〔参考書〕 水野弘元『釈尊の生涯』（春秋社）

基礎仏教学

吉津 宜英

仏教は神を立てない宗教であり、人間の自覚に基盤をおいている。人間がいかに自覚し、その自覚にもとずいて、いかに社会活動を行ったかを見てゆき、自分自身の資助とする所に仏教を学ぶ眼目がある。したがって、これまで仏教の伝統を維持してきた人々は、すべて我々にとって重要な研究対象となる。しかし、ここでは、仏教の開祖と称される釈尊の伝記と思想、および正伝の仏法を主張する道元・瑩山両祖の行実を参究してみよう。仏伝についてはアゴン経から要文を抜き出し、道元禪師については「三大尊行状記」、瑩山禪師の伝記は「諸嶽開山二祖禪師行録」などをプリントし、読みながら進めてゆきたい。

〔教科書〕 プリント

〔参考書〕 随時指示する。

仏書解説 I

伊藤 秀憲

仏書解説 I は禅籍の解説である。この講座では、漢文に親しむということも考えて、禅籍 244 部について解説した『禅籍志』二巻を読みつつ講義を進めて行きたい。本書で不足する禅籍については、補足して説明する。

〔教科書〕 『禅籍志』二巻 担当でコピーする。

〔参考書〕 『禅籍解題』（『禅家語録』筑摩書房）

仏書解説 I

峯岸 孝哉

中国で成立し展開をとげた禅仏教の基本的文献を順次とりあげ解説を加える。

〔参考書〕 『禅語録』〔世界の名著続・3〕（中央公論社）

仏書解説 I

原田 弘道

本講座の内容は「禅籍解説」である。

まず中国・日本に亘って主要禅籍をそれぞれ、Ⅰ禅宗依用、読誦經典、Ⅱ祖録、Ⅲ史伝、Ⅳ生活規範、Ⅴ隨筆等の五類に分けて順次解説を行ってゆく。そして曹洞宗依用の典籍の解説には特に意を用い、あわせて禅籍の全体的体系的の理解を目指す。

〔参考書〕 岡田宜法『禅学研究法とその資料』

仏書解説 II

岡部 和雄

本講義は禅籍を除いた仏教一般の各種典籍の中から、重要かつ著名なものを選び、仏書全体の中でどのような位置を占めるか、その内容や特色、後代への影響などをわかりやすく解説する。仏書をどのように読むか、どのように研究に活用するかという具体的問題についても、適宜言及することにした。

〔教科書〕 『新仏典解題事典』（春秋社）

〔参考書〕 水野弘元『経典——その成立と展開——』（佼成出版社）昭55

渡辺照宏『お経の話』（岩波新書）岩波書店、昭42

仏書解説 II

池田 魯参

インド・中国・日本と展開した仏教の歴史の全般を通じ、研究領域や問題点を典籍資料を中心に回顧したい。ブツダの思想を表明する。主要な経・律・論を重点的にとりあげ、個々の仏典の成立状況や内容・伝播・影響などの観点から体系的に考察し、仏教学を研究するために必要と思われる基礎資料について把握できるよう工夫したい。

〔教科書〕 『新仏典解題事典』（春秋社）

仏書解説Ⅱ

皆川 広義

印度、中国、日本仏教における代表的な仏教書を解説する。特に、思想的関連の上から考察して行きたい。

〔参考書〕 『新仏典解題事典』（春秋社）

仏教語解説

新井 勝龍

仏教が西洋の思想や宗教に対し、特に難解であるといわれる理由の一つに、常に専門用語の特殊性があげられている。思うにその特殊性を構成する最大の要因は、さとり尊重の宗教として、主体的な体験の中から産み出されてきた用語であることによる。又それが故に、同じ用語でも時代的社会的に、使用される場合に依じて、異なった意味やニュアンスが与えられてきたことによる。

本講座はこれらに留意しながら、終極的には禪書における用法に焦点をしぼって、入門の手引きとしたい。

〔教科書〕 水野弘元『仏教要語の基礎知識』（春秋社）

仏教語解説

伊藤 隆寿

仏教を専門的に学習するには、仏教聖典を直接読まなければならない。そのためには、仏教語についての基本的理解を持つことが必要である。本講では、仏教要語を体系的に整理して解説したい。

〔参考書〕 水野弘元『仏教要語の基礎知識』（春秋社）

仏教語解説

石川 力山

本格的に仏教学を学ぶためには、まず基本的な仏教用語に習熟する必要がある。仏教用語は普通の辞典には載せられていない特殊な読み方をし、特殊な意味を持っている場合が多い。また、仏教学を学ぶ者にとって、仏教漢文の素養を身につけることは必要欠くべからざる条件である。この講義では、『八宗綱要』をテキストとして用い、これを読み進めながら、基本的な仏教用語について解説を加え、定義付けを行い、あわせて仏教漢文の読み方についても習得できるようにしたい。

〔教科書〕 『八宗綱要鈔』（永田文昌堂）

〔参考書〕 平川彰『八宗綱要 上・下』（大蔵出版）、鎌田茂雄『八宗綱要』（講談社学術文庫）

専門教育科目

禅学概論

鏡島元隆

第一章 禅の歴史

第一節 インドにおける禅

第二節 仏教の展開と禅

第三節 達磨の禅

第四節 初期の禅宗

第五節 中国禅の形成

第六節 中国禅の分派

第七節 看話禅と黙照禅

第八節 中国禅の変遷

第九節 日本の禅

第二章 禅の思想

第一節 仏教の立場

第二節 仏教における禅の立場

第三節 禅の人間観

第四節 禅の存在観

第五節 禅の社会観

第六節 禅の修行観

第七節 禅の生活観

第三章 現代における禅の意義

禅学思想史

峯岸孝哉

日本曹洞宗の思想的展開をたどり、その歴史的 성격について考える。この背景として重要な意味をもつ教団の展開には十分考慮したい。

〔参考書〕 『道元禅の歴史』〔講座道元Ⅱ〕（春秋社）

禅宗史Ⅰ

田中良昭

禅宗史Ⅰは中国禅宗史をその内容とする。釈尊以来仏教の実践道として重んじられた禅が中国へ伝えられ、菩提達磨を初祖とする系統が、中国固有の思想や仏教諸宗と交渉しつつ、中国禅宗を形成し発展した。従って、達磨渡来以前の禅の流れを導入とし、達磨の渡来から禅宗の成立に至る成立の歴史と、その後五家に分れて各々その特色を発揮する発展の歴史に分けて考察する。

〔参考書〕 講座敦煌第八巻『敦煌仏典と禅』（大東出版社）

講座禅第三巻『禅の歴史—中国—』（筑摩書房）

禪宗史Ⅱは日本禪宗史をその内容とする。中国禪宗史をふまえて、日本禪宗史を思想史および教団史の立場から講義をすすめていきたい。なお、教科書は使用しない。参考書は講義の際指示する。

禪学実習Ⅰ

酒井得元・河村孝道・
小坂機融

禅学は坐禅を根本とする宗教の学問的作業である。学問はあくまで問題を究明することであるが万全の道ではない。究極はむしろ禅学の根本を実修する坐禅にこそ求められなければならない。禅学する者に坐禅が常に実修されないなら真の禅学とは言えない。故に坐禅の実習に当っては坐禅における入堂・坐禅・経行・提唱・出堂の一切が厳粛に行持されていくことになる。従ってこのためには次のような基本的心構えが必要である。即ち時間を厳守し始鈴前に全員入堂端坐していること、常に威儀服装を正すこと、毎時間出席参禅して怠休することは決して許されないこと等である。なお4月最初の授業は坐禅堂における進退作法、席次を指示するので必ず受講すること。

〔教科書〕 『善勧坐禅儀』『正法眼藏坐禅儀』『経行軌』等配布。

禅学実習Ⅱ

鈴木格禅

一講時を二分し、前半は専ら只管打坐、経行を挿んで後半を『坐禅用心記』の提唱にあてる。授業の実施要領および基本的心構え等については、「禅学実習Ⅰ」に全く同じ。

講本は全員同じものを使用することが望ましいので、下記の要領にしたがってほしい。

遅刻を認めず、追再試あるいはレポート提出等による救済措置は一切講じられないから、このことを予めよく承知しておくこと。

〔教科書〕 『曹洞宗全書』宗源（下）。423頁～427頁までをコピーし、厚目の表紙をつけ、指示にしたがって、学科学年・単番号・氏名を、大きく明記すること。

禅学講義

小坂機融

中国禅宗成立初期の語録中、禅旨を詩文によって表詮した「参同契」、「宝鏡三昧」、「証道歌」について順次講義する。まずこれら語録の成立流伝の歴史的背景を考察し、その上で当該語録について講じ、各祖師の挙揚した宗義宗風を明らかにする。今年度は「証道歌」を中心にして講義する。

〔教科書〕 『冠註証道歌』（教場で指示）。

〔参考書〕 『曹洞禅講義』、『禅の語録16』、『講座禅第六巻』。

禅学演習Ⅰ

黒丸寛之

碧巖録・従容録・無門関について、1年毎に順次に演習解説する。

テキストは開講の時に指定する。

禅学演習Ⅱ

河村孝道

「永平語録」・「洞山録」・「臨済録」の各祖録を一年ずつ講読演習してゆくもので、演習を通して祖録参究の視点と禅語への慣熟、および各祖師の人格とその宗風の把握とを主目的とする。

〔教科書〕 教場で指示する。

宗典講読Ⅰ

新井勝龍

道元禅師親撰『学道用心集』を講読する。正法眼蔵が本証妙修の本証面に比重があるとすれば、学道用心集は妙修面に強調点があり、全篇を修行の心得として十章に分け組織的に示されたものである。

従って小篇ではあるが、日本曹洞宗の学道の枢要が述べられている。また説示が簡明であるため、古くから曹洞禅入門のテキストとして用いられてきた。本学で禅学科の必修最初の講座におかれているのも、この伝統をうけているからである。

講読に際しては、始めに史的ないし書誌的に本書の位置づけをし、ついで思想的に道元禅師の一方究尽・本証妙修の道理をほりさげてゆきたい。

〔教科書〕 プリント

〔参考書〕 岸沢惟安師提唱『学道用心集講義』増永壺鳳『学道の用心』

宗典講読Ⅱ

若月正吾

前段においては、中国における清規の歴史とその概要を講述し、さらに道元禅師の清規の特異性を明らかにする。後段においては、テキスト「永平元禅師清規」を使用して「衆寮清規、対大已五夏闍梨法、知事清規」について講義する。

〔教科書〕 『永平元禅師清規』 ¥ 1,000

宗典講義Ⅰ

酒井得元

この講座は仏教学部3年次の必修科目として道元禅師の正法眼蔵を講義する。本年度は「法華転法華」の巻を講ずる予定である。使用テキストは当方で用意があるので配布する。しかし本学生は必ず正法眼蔵の全巻の所持が望ましい。それには次の諸本が出版され

ている。本山版正法眼蔵（鴻盟社）道元禪師全集上巻（筑摩書房）岩波思想大系道元二巻がある。

宗典講義Ⅱ

光地英学

本講義の序説として、瑩山禪師の生涯、禪師の全撰述要旨、伝光録の成立とその精神について概説、次いで本題である「伝光録」の本文の講述を行う。

〔教科書〕『冠註瑩山禪師傳光録』 ¥ 3,100 学内、駒沢書店。

日用経典

桜井秀雄

曹洞宗常用経典・祖典の解題、および回向文と各種疏などに表われる文意の解明を通して、実践宗学の実際を究明する。

〔教科書〕桜井秀雄『曹洞宗回向文講義』 ¥ 450 『続曹洞宗回向文講義』 ¥ 500

禅学特講Ⅰ

原田弘道

公案禅の成立発展と日本禅

公案禅（看話禅）が成立したのは宋代である。叢林の性格変化がこれをうながしたといわれてよい。この問題に関し、叢林の社会経済的背景、叢林の構造変化、叢林の運営理念の変化とその実際、修行観の変化、禅思想の変化等多角的有機的な連関のもとに究明して、その成立の意義を明らかにする。次に道元禅と公案禅、および日本における曹洞宗と臨済宗についても、同様の視点から取り上げて両宗の立場を明らかにして行きたい。

公案の意義、公案の起源と歴史、禅思想および叢林の性格変化、公案禅の成立、公案禅と黙照禅、宋朝禅と道元禅、曹洞宗と臨済宗等大略以上の順序で講義を進める。

禅学特講Ⅱ

黒丸寛之

日本禅籍の中から道元禅関係の語録を選んで講読する。使用テキストは開講時に指定する。

禅学特講Ⅲ

伊藤俊彦

道元禪師伝の研究を内容とする。道元禪師伝に関する根本史料を精読しながら、随時、問題点を取り上げて論じて行きたい。テキストはコピーを用意する。

禪 学 特 講IV

鈴木 格 禪

面山瑞方撰『自受用三昧』講読

面山瑞方（1683～1769）は、道元禪師の伝法挙揚のために、一生を捧げつくした江戸時代の大学僧である。本書は面山が、只管打坐を仰慕し参学する在家人に、修証の資助として書き與えた仮名法語であり、平明な祖述の中に幽遠の義を包蔵した佳篇である。

今年度は本書を素材としながら、深くその宗教的世界を学んでゆきたい。

〔教科書〕 『統 曹洞宗全書』法語・歌頌。463頁から488頁までをコピーすること。

禪 特 講

椎 名 宏 雄

禪宗カナ法語の講読

カナ法語とは、仏教思想を道俗に対して平易に説きあかすために、カナ文字で表現された語録をいう。したがって、それは漢文語録に比較して、みずみずしい具体性と深い思想性に富むという長所をもつ。禪宗にカナ法語が多いのは大きな特長である。

本年度は、『道元和尚仮名法語』と『月庵和尚法語』を読む。前者は道元の名に仮托した偽書とされるが、それはともかく、室町期から大いに流行した作品として、見のがすことができない。後者は、臨済宗大応派に属する但馬大明寺の月庵宗光（1326～1389）が道俗男女24人に示したカナ法語で、珠玉の教化作品である。

〔教科書〕 プリント資料を配布する。

詩 偈

山 口 晴 通

「詩禪一如」の観点に立脚して、テキストを中心に学習し、初歩的な「漢詩の作り方」を教授する。本講座を履修する者は、「漢和辞典」を必携のこと。

漢和辞典の種類については、授業中に指示説明をする。

〔教科書〕 秦慧玉『詩偈作法』（鴻盟社） ¥ 1,800

〔参考書〕 『漢和辞典』

禪 美 術

竹 内 尚 次

禪林美術の国宝・重要文化財を時代をおって、それぞれについての 確実な 史料を提示し、それぞれの時代背景を明示する。これによって、禪林美術の高い芸術性を、学生それぞれが自分の目と手と足で探求する手助けとしたい。

従って、春秋2回の古美術を参観することによって、それが十分ではないとしても実物（各時代の真贋）に触れ、東洋の美術作品のなかに内在する純粹な詩と哲学を直かに把握するように希うものである。

また、広く旧仏教・密教・浄土教などの高度の美術作品をも考慮に入れて、学習そのものにも幅と厚みを加えたいと思う。単にカルチャーや術学を求めようとする人は、お断わりしたい。

〔参考書〕 玉村竹二『夢窓国師』（平楽寺書店）

仏教概論

山内舜雄

仏陀論・仏身論を中心に仏教の基本教理を解説すると共に、その歴史的展開を概観し、各論において、各宗教学の要義を解明する。

〔教科書〕 ノート授業とする。

印度仏教史

袴谷憲昭

インドにおける仏教の通史を講義すると共に、それとの関連において周辺文化に対する仏教の影響をも概説する。インドにおける仏教の教義的展開を、インド文化の歴史的時間の流れの中に位置づけてみることは無論のことであるが、いまだ未解明の仏教史的問題についても、いくつか的を焦って講義を与えてみたい。

〔教科書〕 『仏教史概説』（平楽寺書店）

〔参考書〕 平川彰『インド仏教史 上・下』（春秋社）

中国仏教史

佐藤達玄

仏教を受容した中国民衆が、習俗や思想の上でどのような対応を示したか、また仏教徒の布教活動が曲折しながらも、どのような形で継承されてきたかを、史実をふまえて考究する。

〔教科書〕 『仏教史概説 中国篇』（平楽寺書店）

日本仏教史

山内舜雄

日本仏教史を、『日本仏教概史』（宇井伯寿著）を用いて、上代、そして中世は平安時代を詳説し、鎌倉仏教興起に及び、諸宗派成立までを考察する。歴史と共に、思想・教理の変遷を、できるかぎり解説する。

〔教科書〕 宇井伯寿『日本仏教概史』（岩波書店）

印度仏教文化史

奈良康明

いかなる社会であれ、その成員により獲得され、習熟され、伝達されてゆく諸観念や慣

習、儀礼等がある。かかる生活様式の統合的な体系を文化と呼んでいい。仏教の研究においても、例えば涅槃を中核におく高次の教理の研究も仏教文化の一側面を明らかにするものであることは疑わない。そうした高いレベルの観念や行法を一方におきつつ、他方に、各種民間信仰的な諸観念や儀礼、生活慣習等、日常レベルの生活様式を考察し、且つ、両レベルのかかわりあいを見るところにはじめて仏教文化が全的なすがたでとらえられるのではないか。本講座はこうした視座からインドの社会、宗教とかかわらせつつ、仏教文化の歴史にアプローチをこころみる。

〔参考書〕 辛島昇『インド入門』（東大出版会）

奈良康明『仏教史Ⅰ—インド、東南アジア—』（山川出版）

仏教教理史Ⅰ（印度）

平井俊栄

インドにおける仏教教理の展開を歴史的に講義する。釈尊の根本教説にはじまって、原始仏教、部派仏教（小乗仏教）、大乘仏教、さらに、中観・瑜伽両学派の教理について講ずる。

〔教科書〕 『宗教学Ⅰ』（更生社）の第2部「インドの仏教」

〔参考書〕 平川彰『インド仏教史 上・下』（春秋社）

仏教教理史Ⅱ（中国）

田中良昭

中国における仏教教理の展開を歴史的に考察する。外来宗教としての仏教が、中国固有の宗教と交渉しつつ、訳経、義解、研究、教判、宗派、実践、融合という過程を経て中国仏教として成立発展した歴史的展開を講述する。

〔教科書〕 鎌田茂雄『中国仏教史』（岩波書店）

印度哲学史

田上太秀

インダス文明から説き起し、ヴェーダ文献にみられるインド古代思想を概観し、仏教興起時代の社会的背景と仏教との関わりを見、さらに六派哲学を仏教と関連づけながら、説明することにした。

〔教科書〕 とくに指示しないが、早島鏡正他三共著『インド思想史』（東京大学出版会）

¥ 3,000 を中心にして講義する予定。

経典講読Ⅰ

石川力山

前期では『法句経』『遺教経』『般若心経』を講読する。『法句経』は、仏陀の金言を集めた、最もすぐれた入門書で、人間の正しい生き方が端的に示されている。『遺教経』は

禪門でも重要視され、日常読誦されている經典であり、一緒に読みながら解説を加える。

後期は、一切法が空・無我であることを説く『金剛經』を講読する。『金剛經』は古くより、中国・チベット・日本を通じて広く流布した經典であり、禪宗では六祖慧能以来特に重んじられ、注釈書も作られた。講義では、鳩摩羅什訳と玄奘訳を対比させながら、サンسكريット原典からの訳も参考に解説する。

〔教科書〕 プリント『金剛般若經』(更生社)

〔参考書〕 『般若心經・金剛經』(岩波文庫)

經典講読Ⅱ

岡部和雄

大乘經典とくに初期に成立した維摩經や法華經の諸品から適切な文章を選んで講読し、大乘仏教が、それ以前の仏教とどのように相違するか、何を受けついで発展させたかを考える。經典の講読を通して大乘思想の特質を具体的に理解できることをめざす。

仏典演習Ⅰ

佐藤達玄

本演習は「七十五法名目」を講読する。本書によって説一切有部の学説に基づく仏教思想の基本的な構造を理解することを目標とする。

〔教科書〕 大正大藏經卷61所収『七十五法名目』をプリントしておくこと。

仏典演習Ⅰ

吉津宜英

仏典演習Ⅰは基本的な仏典を取り上げ、諸君に実際に演習していただく授業である。テキストとしては七十五法名目をを用いるが、本書は玄奘訳俱舎論の教理の綱要書であるから、はじめに俱舎論の組織内容と成立にもふれたい。仏教は仏法ともいわれるように、一切の物事を法の立場で見ゆ宗教である。しかし、その法をどのように規定してゆくかについては、仏教の各学派で異っている。ある学派は一切法は空であるとし、他の人々は一切は仮だと考え、また他の人は一切法は唯心だとも言う。今の俱舎論から七十五法名目に至る説一切有部の教学では一切法は実有だと主張する。その直理観と大乘のそれとの接点と対立点をも明らかにしよう。

〔教科書〕 プリント

〔参考書〕 随時指示する。

仏典演習Ⅱ

池田魯参

『大乘起信論』が、インドで成立したのか、中国で成立したのかという点について、学者間に議論があったことは周知のことと思う。今日でもこの疑問は解決されたわけではな

い。成立の事情はともあれ、内外に大きな影響を与えた典籍として、本書の右に出るものはない。慧遠・元暁・法蔵の『起信論』の三疏を筆頭に、中国・日本における研究は二百数十種を数えるほどである。

『起信論』は、現実の生存のあり方を自性清浄の一心としておさえ、それが迷いや悟りとして展開する実践構造を如来蔵や阿梨耶識によって論証している。各人が調べ各人が考える訓練を通して、仏教における救済の理論の枠組みを把握して頂きたい。

〔教科書〕 正藏32卷所収 真諦訳本コピー

〔参考書〕 最初の授業で指示する。

仏典演習Ⅱ

伊藤隆寿

中国隋代の嘉祥大師吉蔵の『三論玄義』を講読する。本書を通して、吉蔵の主張の特色を把握することは勿論、竜樹の「中論」「十二門論」、提婆の「百論」の中心思想及びそれらの論書の成立背景を知り、さらには、吉蔵に至る中国仏教の歴史についても理解を深めるようにしたい。

テキストは、当方で準備する。

〔参考書〕 三枝充恵『三論玄義』〔仏典講座27〕（大蔵出版）

仏典研究

岡部和雄

中国・日本の仏教に大きな影響を与えた地藏菩薩の信仰をとりあげ、関連する諸経を検討する。十王信仰、引路菩薩の信仰を勧める敦煌出土の偽経類にも言及するつもりである。日本撰述と見られる『地藏菩薩発心因縁十王経』の本文および図絵についても検討を加え、地藏信仰・十王信仰の日本の展開について考察する。

仏教研究

田上太秀

江戸時代の学者・富永仲基が著わした、仏教批判書として有名な『出定後語』を読む。昨年に続けて読み進む。新しく受講しても内容を理解できないということはない。

〔教科書〕 コピーを使用する。

仏教特講Ⅱ

納富常天

鎌倉新仏教の形成および旧仏教の復興を、思想的・社会的立場から考察し、その展開を概観する。

〔参考書〕 家永三郎監修『日本仏教史Ⅱ 中世編』（法蔵館）

仏教特講Ⅲ

鎌田茂雄

法藏の著作である『華嚴五教章』を用いながら、華嚴学を講義する。華嚴学は難解ではあるが、何となく聞いているうちに分かるようになる。

〔教科書〕 『華嚴五教章』（大蔵出版） ¥ 3,000

仏教特講Ⅳ

太田久紀

成唯識論卷第一，二，三講読。

〔教科書〕 太田久紀『選註成唯識論』（中山書房） ¥ 2,500前後

仏教特講Ⅴ

佐藤達玄

梵網經によって大乘菩薩戒の内容を理解し、生活との関わりを考究したい。

〔教科書〕 仏典講座『梵網經』

外国語仏書演習

平井俊栄

Kenneth Chien: Buddhism in China—A Historical Survey (1964, Princeton University Press) の演習。本年度は Chap XI the Schools of Buddhism in China を読む予定。本書は英文による中国仏教史で、第11章は中国仏教諸宗の教理の概説である。

〔教科書〕 上記 Text を各自購入すること。入手困難な場合はコピーすること。

パーリ語初級

東元慶喜

AN ELEMENTARY GRAMMAR OF THE PĀLI LANGUAGE

BY KEIKI HIGASHIMOTO (PRICE ¥ 1,800)

初等パーリ語文法をやる。これは PĀLI 語をやるのにはぜひともやらねばならぬ。

パーリ語上級

東元慶喜

A PĀLI READER WITH NOTES AND GLOSSARY (PRICE ¥ 2,300)

デンマークで出版された、パーリ語読本である。グロッサリーがついていて、それだけで別の辞典を用いなくてもよみこなせる。文法をマスターすれば、この読本によって読解力をやしなうことができる。

パーリ語演習

東元慶喜

AID TO PĀLI CONVERSATION AND TRANSLATION (PRICE ¥1,500位)
PĀLI 文と英文がのせられていて、やさしい PĀLI 文にしたしむのには手頃の本である。

サンスクリット語初級

奈良康明

サンスクリット(梵語)の文法を簡単な文例と共に学習する。インド哲学、インド仏教の研究を志す者には必須の科目なので、できるだけ早い学年に習得することが望ましい。

〔教科書〕 J. ゴンダ著・鏗淳訳『サンスクリット語初等文法』(春秋社)

〔参考書〕 辻直四郎『サンスクリット文法』(岩波全書)

サンスクリット語上級

奈良康明

文法を終了した者を対象に、サンスクリットの読解力をやしなう。

〔教科書〕 辻直四郎『サンスクリット読本』

サンスクリット語演習

袴谷憲昭

これは、純然たるサンスクリット文学の演習ではないことを、まずお断りしておきたい。以下に示したテキストは、『大乘莊嚴經論』として漢訳もされた、仏教の特に唯識思想に関連するサンスクリットテキストである。本演習では、このテキストを、サンスクリット仏典を読む訓練の一環として取上げる。これをまず当然の前提とした上で、集った学生の要求に応じて、必要とあらば、チベット関連資料にも目を通すことにしたい。本学年度は「種性品」(Gotrādhi kāra) と「真実品」(Tattvādhikāra) とを読む。

〔教科書〕 Sylvan Lévi (ed.), Mahāyānasūtrālamkāra

チベット語(文法)

袴谷憲昭

チベット語(文語)の特質を習得してもらうべく文法を教授する。それに即した最良の指南が下記のテキストであるが、未公刊のためコピーを用意する。従って、受講希望者は、開講初日に必ず出席し、その要不要を意志表示されたい。講義では、文法教授のかたわら、チベット撰述文献の選文を用意し、読解力の増進に役立たせたいと考えている。

〔教科書〕 山口瑞鳳『チベット語文法』

チベット語（講読）

山口 瑞鳳

チベット語文法を習得した学生を対象として、インド仏教の論書等をチベット語に訳出したものや、チベット人学僧の著作等を講読する。本年度のテキストは、昨年度にひきつづいてアティシャー（Atiṣa 982~1054）の Bodhipathapradīpa『菩提道燈論』の自注書とする。この講読によって注釈書の読み方とインド仏教の基本的な考え方を同時に学ぶことが出来る。なお、チベット語を独習した学生も充分ついていけるように配慮した説明が行われるであろう。

〔教科書〕 sDe dge Ed.『東北大目録』No. 3948『菩提道燈論難語釈』

ラテン語特講

佐藤 玖美子

本講座は、英米語をはじめとする現代ヨーロッパの言語のより良い理解者となるための、古典ラテン語の基礎知識の習得、とくに文法規則を学び、動詞、名詞の変化に慣れることを目的とするものである。またやさしいラテン語で書かれた物語りの講読をもあわせて行う。

〔教科書〕 樋口勝彦・藤井昇著『詳解ラテン文法』（研究社）

宗教学概論

松本 皓一

1. 宗教学としての宗教理解の立場
2. 宗教学の方法
3. 人間経験としての宗教現象
4. 社会的機能としての宗教現象
5. 宗教と他の文化現象との関係

〔教科書〕 ノート中心。

〔参考書〕 随時講義中にあげる。

宗教史

松本 皓一

宗教史の学問的立場をのべ、比較宗教的見地から、人間生活と宗教の歴史の関わり合いを考えてみる。

〔教科書〕 『世界の宗教』（大明堂）

キリスト教史

秀村 欣二

世界宗教の一つであり、西洋の歴史・社会・文化・思想の基盤であるキリスト教の潮流

をイエス・パウロの原点から現代に至るまで概説する。比較宗教・比較文化的考察をも加え、テキストや参考書によってエピソードや図版を活用し、理解を進めるつもりである。

〔教科書〕 R. H. ベイントン著・気賀重朝・気賀健生訳『世界キリスト教史物語』（教文館）

〔参考書〕 その都度指示する。

新 宗 教 概 説 洗 建

わが国近代における新宗教の成立と展開について概観する。新宗教の概念規定、現代社会における意義、役割等について考察すると共に、寺院仏教はそこから何を学び得るかにについても考えてみる。

〔参考書〕 適時指示する。

各 宗 綱 要（浄土学） 戸 松 啓 真

法然上人の主著である『選択本願念仏集』により浄土宗義の中心である教判論、所依の経論釈、安心、起行（念仏）、本願、四修、三種行儀、往生、極楽浄土などについて説述し、浄土宗の教えが凡入報土即ち貴賤貧富を問わず誰れでも念仏称名によって平等に往生できることを明らかにしたい。

〔教科書〕 藤堂祐範校訂『選択本願念仏集』（浄土宗々務庁東京事務所発行）

〔参考書〕 石井教道『選択集全講』

仏 教 美 術 林 良 一

仏教美術の図像学ならびにインド以来の様式的展開について講述する。寺院の遺跡や仏菩薩等の尊像を、原地撮影のカラー・スライドによって映写し、理解を深めるように努める方針である。

仏 教 民 俗 学 和 田 謙 寿

文化財の集いや郷土史の研究会にのぞんだ場合、必ず仏教文化史的な知識が必要となってくる。更にまた、葬式や法事などに出かけると必ず、仏事などに関する質問を受けるものである。このような場合に対処出来るように、冠婚葬祭、特に先祖供養と葬送の面に重点を置き今年の講座を進めて行きたいと思う。尚、実地巡検や特殊ゼミ・夏季休暇を利用しての海外特殊巡検（希望者）を実施する場合もあるので留意してほしい。

〔教科書〕 和田謙寿『仏教の地域発展』-民俗学・歴史学的考察-（仏教民俗学研究会）

¥ 2,600

宗 教 教 育

桜 井 秀 雄

宗教教育の原理を究明し、できるだけ実証的な調査資料によって宗教意識をさぐり、これに対する具体的方法について考察し、家庭・学校・社会教育のそれぞれにおける宗教教育の意義と實際を研究する。

〔教科書〕 日本宗教学会編『現代青少年の宗教意識抄』

教 化 法

皆 川 広 義

仏教における伝道法について、理論と実践との二面より概説したい。この場合、伝道とは教えを宣布する布教活動と、その教えにより対機を育成する教化活動を意味する。

理論面からは、教義、対機、伝道者及び伝道法の三点より、現代における仏教伝道のあり方をさぐる。

実践面からは、教えの宣布を中心とした布教活動と、教えにより教化育成する教化活動に分けて現場における実践として具体的に考察する。

青少年教化法

皆 川 広 義

仏教における青少年教化活動について概説し、次に、対機論と集団教化及び個人教化法を特にとりあげて詳説したい。

対機論では、近代の諸科学の人間研究や仏教の人間観などをふまえて、幼児、少年、青年と身心の発達にそいながら特色及び行動などをさぐり、教化のあり方を求める。

集団教化法では、仏教青年会、禪的合宿研修（禅の集い・禅の家）スカウト・日校・子ども会などを、個人教化法では、人生相談・信仰誘引法など具体的に考察する。

青少年問題研究

和 田 謙 寿

中学校・高等学校の教師をめざす者、ならびに青少年指導者（社会教育主事・保護司・民生（児童）委員・青少年指導員）を志す人々を対象とし、その理論と現実の両者をつめつつ講義をして行きたい。特に学校の教師となった場合、専攻した学問は当然のこと、受持った生徒の生活指導にも多大の比重で尽くさねばならぬ。その点にも深く留意して授業をすすめる事にしたい。

青少年問題に興味を持ち、外部の機関と連携しつつ更に研究しようと心掛ける者は、青少年問題研究室の研究会員として入会されるのも一方法と考えられる。

〔教科書〕 和田謙寿『少年補導の研究』（全防連） Y 1,200

青少年指導演習

和田 謙 寿

年々少年の不良化や犯罪の増加していることは誠になげかわしい次第である。国家や地方公共団体はこれに対応して万全の策をつくしているが、焼石に水の現状である。この種の問題は理論だけで済まされるものではなく、実際的な面からの考察が必要である。将来、保護司や民生委員（児童委員）、少年補導員、社会教育主事などの社会教育行政に従事しようとする人々には、是非とも必要な講座である。青少年の問題に興味を持ち、外部の機関と連携しつつ、更に研究しようと心掛ける者は、青少年問題研究室の研究会員として入会されるのも一方法であると考えられる。〔ゼミなので人員数の多い場合は制限することもある。〕

哲学概説

齋藤 知 正

哲学は元来、外に対象に向う認識としてではなく、内に反省する主観の自覚たることを本質とする学問である。本講は哲学の外延的な概観よりも、内包的にその全体に通ずる本質への反省に主眼を置いて話を進める。

〔教科書・参考書〕 教室で示す。

現代哲学概説

山下 太 郎

現代の代表哲学は、実存哲学と分析哲学とマルクス主義であるが、そのうちとくに実存哲学の主張を、その先駆より始めて、ドイツ、フランスにおける展開を概説する。内容目次は次のとおりである。

1. 先駆 キエールケゴールとニーチェ
2. ドイツの実存哲学 ハイデッガーとヤスパーズ
3. フランスの実存主義 サルトルとマルセル 等。

〔教科書〕 なし

哲学史

中村 友太郎

西洋の思想と文化は、ヘレニズムとヘブライズム、ギリシア哲学と聖書の信仰の結合の上に形成されてきた。ここではとくにキリスト教的中世哲学の形成とその展開をあとづけることを主眼としたい。それは、神・自然・人間をめぐる理性の立場と信仰の立場との対決・調和・抗争の思想史という様相を呈するであろう。

〔教科書〕 服部英武郎『西洋古代中世哲学史』（ミネルヴァ書房）

〔参考書〕 その都度指示する。

哲学演習

齋藤知正

近代のニヒリズムと空の立場との対比を通して、東西両洋の思想の比較統合を中心テーマとして演習を行う。参考書はその都度教場において示す。

中国文学概論

飯田利行

大綱は、中国文学を日本文学と対比して講ずる。

細目は、文学用語の違い、漢詩の作法、鑑賞、批評の態度、基準等にわたって講ずる。

中国文学演習

飯田利行

良寛和尚の詩を演習する。昭和57年度、日展書道部の書題としてみる日中詩人のうちで良寛詩が圧倒的に多いことは、良寛詩がいかに日本人に親しまれているかを示す。

〔教科書〕『良寛詩集訳』（大法輪閣） ¥ 1,800

東洋思想研究

船津富彦

中国人の持つ独自の思想はいろいろあるが、それらの中で、非常にすぐれたものであって、日本文化にも大きな影響を与えたものに文学思想がある。本年度は上代から現代に至るまで、中国人が文学について如何に考えたか、その作品に如何なる影響を与えたか、日本文化とのかわりについて、資料を中心にして、いろいろの点から考察してみたい。

心理学概論

篠原英寿

この講座は基礎教育科目に組入れられているが、専門科目であるので、心理学の関与している問題を全般的に取上げたい。そこで、心理学とはどのような学問か。その研究方法・研究対象、及び意義について講義し、さらにこれまでの研究成果をもとに具体的事例に即して、上述したこととの関連を紹介したい。

〔教科書〕『心理学概説』（八千代出版）

禅学研究

青龍宗二

この講座は修証論を中心として、禅戒・清規思想を考究してゆくが、特に修証論は宗学上における根本の主要課題であるため、修証論の諸問題を検討してその特異性を明確にすると共に、現代的意義をも明らかにする。講義内容は修証論、禅戒論、清規論の順序で進める。

禅 籍 講 義

青 龍 宗 二

この講座は中国禅籍の講読であるが、六祖慧能の『法宝壇経』について参究し、慧能禅の特色を明らかにしてゆくと共に、宗学との関連から道元禅師との思想的関係をも言及してゆく。

〔教科書〕 講義の際、指示する。

教職および資格講座

教 職 課 程

学校図書館司書教諭講座

博 物 館 学 講 座

社会福祉主事講座

社会教育主事講座

※上記の教職および資格講座授業科目の講義内容が掲載されているが、各学部において受講出来る課程および講座は以下のとおりである。（履修についての詳細は「教職課程・資格講座受講の手びき」を参照）

課 程・講 座 名	資 格 取 得 学 部
教 職 課 程	全学部
学校図書館司書教諭講座	全学部
博 物 館 学 講 座	文学部・仏教学部
社会福祉主事講座	文学部・仏教学部
社会教育主事講座	文学部・経済学部・法学部・経営学部

目 次

<p>教育原理(上岡 安彦)…………… 1</p> <p>教育原理(村山 輝吉)…………… 1</p> <p>教育原理(坂本 信昭)…………… 1</p> <p>教育原理(汐見 稔幸)…………… 1</p> <p>青年心理学(大浜幾久子)…………… 2</p> <p>青年心理学(武井 澄江)…………… 2</p> <p>青年心理学(牟田 悦子)…………… 2</p> <p>青年心理学(渡辺三和子)…………… 2</p> <p>教育心理学(大浜幾久子)…………… 2</p> <p>教育心理学(武井 澄江)…………… 2</p> <p>教育心理学(中村 均)…………… 3</p> <p>教育心理学(渡辺三和子)…………… 3</p> <p>道德教育の研究(万羽 晴夫)…………… 3</p> <p>教育実習(上岡 安彦)…………… 3</p> <p>教育実習(村山 輝吉)…………… 3</p> <p>教育実習(坂本 信昭)…………… 4</p> <p>教育実習(汐見 稔幸)…………… 4</p> <p>国語科教育法(神谷 道倫)…………… 4</p> <p>書道科教育法(谷村 義雄)…………… 4</p> <p>宗教科教育法(松本 皓一)…………… 5</p> <p>英語科教育法(大沢 一雄)…………… 5</p> <p>社会科教育法(地理)(高木 久)…………… 5</p> <p>社会科教育法(地理)(中島 義一)…………… 5</p> <p>社会科教育法(歴史)(野呂 肖生)…………… 5</p> <p>社会科教育法(谷敷 正光)…………… 5</p> <p>社会科教育法(古屋野素材)…………… 6</p> <p>社会科教育法(大久保治男)…………… 6</p> <p>職業科教育法(中野目直明)…………… 7</p> <p>商業科教育法(谷敷 正光)…………… 7</p> <p>商業実習(前田 幸一)…………… 8</p> <p>職業指導(山田 勇治)…………… 8</p> <p>産業概説(和田 禎一)…………… 8</p> <p>世界史概説(前田 正名)…………… 9</p> <p>世界史概説(青木 道彦)…………… 9</p> <p>日本史概説(芥川 龍男)…………… 9</p> <p>地誌学概説(今朝洞重美)…………… 9</p>	<p>地誌学概説(長野 覚)…………… 9</p> <p>地誌学概説(渡辺 盾夫)…………… 9</p> <p>自然地理学概説(早船 元峰)…………… 10</p> <p>人文地理学概説(高木 久)…………… 10</p> <p>社会学原論(渡辺 源樹)…………… 10</p> <p>経済原論(小野 俊夫)…………… 10</p> <p>政治学原論(岡田 皓一)…………… 10</p> <p>民法 I (兩宮 真也)…………… 11</p> <p>哲学特講 I (東洋)(篠原 寿雄)…………… 11</p> <p>哲学特講 II (西洋)(国嶋 一則)…………… 11</p> <p>宗教学特講 I (松田 文雄)…………… 11</p> <p>宗教学特講 II (脇本 平也)…………… 11</p> <p>宗教学特講 III (洗 建)…………… 12</p> <p>教育史(磯野 昌蔵)…………… 12</p> <p>宗教教育(桜井 秀雄)…………… 12</p> <p>教育関係法規(汐見 稔幸)…………… 12</p> <p>図書館学 I (若林元典・山崎慶子)…………… 12</p> <p>図書館学 II (若林 元典)…………… 13</p> <p>博物館学(倉田 芳郎)…………… 13</p> <p>博物館実習 I (館務) (倉田芳郎・石井孝則)…………… 13</p> <p>博物館実習 II (収集) (倉田芳郎・葉貫磨哉・所理喜夫)…………… 13</p> <p>博物館実習 III (見学) (倉田芳郎・鶴丸俊明)…………… 14</p> <p>博物館実習 IV (特講)(石井 則孝)…………… 14</p> <p>視聴覚教育(赤堀 正直)…………… 14</p> <p>日本文化史 I (圭室 文雄)…………… 14</p> <p>印度仏教文化史(奈良 康明)…………… 15</p> <p>西洋文化史 I (椋川 一朗)…………… 15</p> <p>西洋文化史 II (阿部 重雄)…………… 15</p> <p>仏教美術(林 良一)…………… 15</p> <p>現代美術(中山 典夫)…………… 15</p> <p>禅美術(竹内 尚次)…………… 15</p> <p>美術史概説(林 良一)…………… 16</p> <p>西域美術史(林 良一)…………… 16</p>
--	--

考古学概説Ⅰ(日本)(倉田 芳郎)……………16	社会福祉事業発達史(林 千代)……………21
考古学概説Ⅱ(外国)(飯島 武次)……………16	母子福祉論(林 千代)……………21
考古学特講Ⅱ(飯島 武次)……………16	医療社会事業論(春見 静子)……………21
考古学特講Ⅳ(狩野 千秋)……………17	社会福祉方法総論(高橋 重宏)……………22
日本民俗学(山折 哲雄)……………17	社会福祉管理運営論(重田 信一)……………22
仏教民俗学(和田 謙寿)……………17	リハビリテーション論(原田 信一)……………22
宗教人類学(佐々木宏幹)……………17	社会教育概論(磯野 昌蔵)……………22
考古発掘実習(飯島 武次)……………17	社会教育方法論(磯野 昌蔵)……………23
社会福祉概論(高橋 重宏)……………17	社会教育行政財政(酒匂 一雄)……………23
障害福祉論(原田 信一)……………18	教育社会学(村山 輝吉)……………23
社会福祉実習(原田 信一)……………18	社会心理学(坪井 健)……………23
社会福祉法制(小林 弘人)……………18	社会教育施設(村山 輝吉)……………23
公的扶助論(小沼 正)……………18	児童教化(富田 博之)……………24
児童福祉論(原田 信一)……………19	青少年問題研究(和田 謙寿)……………24
老人福祉論(奥山 正司)……………19	青少年指導演習(和田 謙寿)……………24
社会保障概論(小沼 正)……………19	社会教育演習(上岡 安彦)……………25
地域福祉論(岡田 真)……………20	教育評価(大浜幾久子)……………25
ケースワーク論(高橋 重宏)……………20	教育法規研究(神田 修)……………25
グループワーク論(松本 榮二)……………20	成人指導及青少年指導(酒匂 一雄)……………25

教育原理

上岡安彦

教育に関する古典をたんねんに読むなかで，“教育とは何か”を変え、そこから日本の教育の事実に還って教育本質論を再考したい。

〔教科書〕ルソー著・今野一雄訳『エミール』（岩波文庫）上、¥550 中、下、各¥450

教育原理

村山輝吉

前半は主として下村湖人の教育論を軸に，教育とはなにかということを原理的に追求したい。後半は，いくつかの実践記録をとり上げ，それを読みあうことを通して，今日の教育の問題点を考察したい。

〔参考書〕その都度指示する。

教育原理

坂本信昭

1. 教育とは何か
2. 教育の目的
3. 教育の内容
4. 教育の方法
 - (1) 教授学習の方法
 - (2) 生活指導
5. 教育の経営
6. 教育の制度
7. 教師

おおむね上記についてテキストにそって論究してゆく。

〔教科書〕教師養成研究会編『教育原理』（4訂版）（学芸図書） ¥ 900

〔参考書〕デューイ著・宮原誠一訳『学校と社会』（岩波文庫）

ルソー著・今野一雄訳『エミール』など，授業で適宜紹介する。

教育原理

汐見稔幸

発達のな人間学への展望のもとに，教育とは何であったか，望ましい教育とその可能性は，等について諸角度から考え合う。具体的には，人類の歴史と教育の諸相，現代日本の教育の課題，人間が発達するとはどういうことか，教えるということの本質，今日の教師の在り方，などを探ることになる。

〔参考書〕勝田守一『能力と発達と学習』（国土社）

青年心理学

大 浜 幾久子

まず青年期に限らず一般に、人間の発達とは何か、について考察する。その上で青年期の様々な問題を取りあげ、それらに対する心理学的な分析の方法と最近の研究を紹介、解説していく。また性格テストなどの実習も行う。

青年心理学

武 井 澄 江

前半では、青年期を乳幼児、児童期から成人への発達系列の中に位置づけ、その上で、人間に特有だといわれるこの時期の発達上の特徴をとらえていく。後半では、特に、青年の人格、人間関係、価値観など社会的生活の側面に焦点をあて“青年”を考えていく。

青年心理学

牟 田 悦 子

青年期は第2の誕生ともいわれ、他の時期と質的に区別されるが、誕生から死に至るまでの人間の発達の中で連続するものと不連続なものについて考えながら、青年期の意味を理解していきたい。また、現在青年期にある自分自身についての理解を深めることもこの授業のもうひとつの目的である。

〔教科書〕 藤永保也編『青年心理学 テキストブック心理学(5)』（有斐閣） ¥ 1,200

〔参考書〕 井上健治他編『青年心理学』（有斐閣）

青年心理学

渡 辺 三和子

前期では人格発達の諸問題を取りあげ、人間の発達における青年期の占める位置を考える。後期では、青年期独自の問題を検討しつつ、自己を深め、また中高校生の心理を理解することをめざす。

〔参考書〕 津留宏『青年心理学』（有斐閣双書）

教育心理学

大 浜 幾久子

前半では、発達心理学・学習心理学・人格心理学など現代心理学の諸分野の基礎理論のうち、教育にかかわるものを解説する。後半では、学校教育を中心に、教育の現場の様々な問題を取りあげ、教育心理学的な考え方と、それに関連した最近の心理学研究を紹介、解説していく。また知能テストなどの実習も行う。

教育心理学

武 井 澄 江

「発達」「学習」「集団」「評価」などに関する心理学的知見を概説する。多くの具体例をあげながら、また、知能検査その他の実習を含めて議義をすすめていく予定である。

教育心理学

中村 均

大人になってしまった者（たとえば、この講義への出席者）にとって、子どもの理解は大変困難である。そこで、子どもがどうしてそのような行動をとるのか、について、心理学の考え方で、説明を試みる。と同時に、望ましいと思われる行動をとらせるためにはどうしたら良いのか、について考えてみる。（発達、および学習）

また、それぞれの子どもに応じた教育的働きかけについて（個人差）、更に、教育的働きかけがうまくいっているのかどうかをチェックする方法（評価）について触れる。

教育心理学

渡辺 三和子

前期は発達のしくみ、発達と学習を中心に、後期は教校における教授学習の過程について考察する。

〔参考書〕 永野重史・依田明編『教育心理学入門』（新曜社）

道徳教育の研究

万羽 晴夫

明治以降の道徳教育の歴史的検討を通して、道徳教育のあるべき姿を考察する。

〈主たるテーマ〉

1. 教育勅語の成立と、その果した意味。
2. 宗教と教育。
3. 国民学校と道徳教育。
4. 教育基本法の要請する要件。
5. 「道徳」授業の特設と、とりたてての指導。
6. 「人間性豊かな児童の育成」について。

〔参考書〕 『史料 道徳教育』（総合労働研究所） ¥ 2,000

教育実習

上岡 安彦

「教育実習」期日前は、実習校での教育実習の実際について講義を行なう。

「教育実習」後は、実習生の教育実習の“体験”から、“教育の構造”を再顕していく研究の場とする。

教育実習

村山 輝吉

教育実習に主体的にとり組み、教育について理解と関心が深まるよう、年間を通じて次の事項をとりあげる。

1. 教育実習の意義や心がまえ
2. 学習指導について

3. 生活指導について

4. 学校と教師に関する諸問題

現場における実習の体験をはさんで、講義、討議、レポート作成、面談等、適宜の方法と形態で進めていく。

教育実習

坂本信昭

駒沢大学の教育実習は“通年履修”となっており、教育実習前後の大学での授業はおおむね下記のとおりに進める。

教育実習前の段階では、(1)教育実習の意義及び目標・内容(領域)に関する講義とそれに並行して、(2)実習校における教育実習の事例を示し、(3)教育実習の心得などについての事前指導を行なう。

教育実習後は、(1)教育実習の口答報告、(2)レポート作成→提出、(3)提出レポートを教材としてのグループ編成による授業(ディスカッション)を行ない教育への理解を深め、望ましい教師のあり方などについて考える、いわゆる事後指導を行なう。

〔参考書〕大村はま『教えるということ』(共文社)など、授業で適宜紹介する。

教育実習

汐見稔幸

実習前は実習の意義、心がまえ、授業の本質などについて論じ、実習後は感想等をもとに、よりつっこんで教えることの意義、可能性、教師のあり方などについて考えあう。

国語科教育法

神谷道倫

中学校・高等学校の国語科教育の意義・現況、ならびに学習内容(領域)・教材に即したそれぞれの指導方法等の基礎的事項について講義、のち実際の教材にあたって指導事項・指導方法等の研究を深め、実践に際しての指導力を養成する。

〔教科書〕『中学校・高等学校 国語科教育法(新版)』(桜楓社) ¥ 880

(『古典文学選』(教育出版) 定価未定——後半使用の予定・改めて指示)

書道科教育法

谷村義雄

高校書道の教科内容について解説するとともに、ひろく書道という芸術の歴史的展開および書法そのものの伝統と技法について理解せしむるように講義する。(前期)

書道金石学の基礎について研究学習を進める。この分野はまだ我が国では未開拓に属するので特に中国の學術書について解説する。(葉昌熾・「語石」の講読)(後期)

〔教科書〕テキストはプリントして使用。

〔参考書〕『高等学校学習指導要領解説(芸術科篇)』(文部省)藤原楚水『書道金石学』

宗教科教育法

松本 皓一

宗教科教育上の理論と実際上の問題点をのべ、教材研究を中心に授業を進める。

〔教科書〕 ノート中心

英語科教育法

大沢 一雄

各種教授法について述べたあとで、新しい教授法がどうあるべきかを考える。なお、初級から上級までの各段階の英語教授について演習をおこなう。

社会科教育法（地理）

高木 久

1. 教師としての在り方
2. 地理学方法論の確認
3. 地理教育について
4. 新学習指導要領の内容
5. 地図指導
6. 教育実習の意義
7. 学習指導案の研究
8. 模擬授業

前期において講義を中心とし、後期においては教室での演習を専一とし、その批判・反省を行なって行く。

社会科教育法（地理）

中島 義一

中学・高校の社会科（地理）につき指導計画・指導案の立て方・教材研究・地理クラブ・修学旅行の指導法等につき講じ、後半は授業演習を行う。下記教科書のほか ①中学校の社会科（地理）教科書と ②地図帳（高校生の時に使用したものでよい）を必要とする。①については授業時に指示する。

〔教科書〕 山崎謹哉『新訂地理教育の本質と実践』（古今書院）

社会科教育法（歴史）

野呂 肖生

中・高等学校における社会科、とくに歴史の指導をするにあたって必要なことがらを、理論と言践の両面から考えてゆきたい。そのために課題をかなり多く課す予定である。

社会科教育法

谷 敷 正 光

社会科は、民主主義の発展と平和的な国家・社会の形成者の育成をめざす上で、重要な

使命を負って誕生した教科であり、日本の将来を担ったと云っても過言ではない教科である。しかし、この社会科教育も、戦後日本資本主義発展とともに大きく変遷し、動揺し続けてきた。

したがって、しっかりとした社会科教育を樹立するため、単なる教授方法の技術論ではなく、より基本的な「教育とは何か」といったところまでさかのぼって充分検討してみたい。その上で、社会科教育の基本原理とその内容・方法の把握につとめ、教科担当の専門職としての認識を深めたい。

①戦後日本資本主義の発展と教育、②教育の基本概念、③日本資本主義の発展と社会科教育、④社会科教育の基本概念、⑤中学校・高等学校の教育課程と社会科、⑥社会科の学習指導、⑦学習指導案の作成、⑧中学校社会科の目標・内容、⑨高等学校社会科の目標・内容、⑩教育評価、⑪教育実習のために、⑫教育採用試験の準備と今年度の採用について（教員採用試験の受験希望者は授業とは別に指導する。）

〔教科書〕 梶 哲夫『中等 社会科教育研究』(1) (高陵社)

遠山 啓『競争原理を超えて』(太郎次郎社)

〔参考書〕 矢川徳光『教育とは何か』(新日本出版新書)

無着成恭『山びこ学校』(角川文庫)その他、若干のルポ、小説、社会科の教科書、学習指導要領も使用する。

〔注意〕 年間かなりの資料を作成配布するので、必ずファイルを用意すること。また年間、数回校外研修(授業参観)などを行う予定である。

社会科教育法

古屋野 素材

我が国において社会科について考えるということは、一教科の問題にとどまらず、必然的に教育問題全体の極めて重要な側面—政治状況と教育の緊張関係をはじめとして—を考察する方向へむかわざるを得ない。当講義では、この点をふまえつつ、社会科に関連する歴史的な問題構造を検討し、かつ今後の社会科教育が果たすべき役割とその可能性の検討を通じて、各自が教職に主体的にかかわってゆく手がかりをさぐりたい、特に、大学生として、各自が専攻する領域で深い学識を得てゆく過程をこそ、教職志向のバネとしてゆくことに価値を求める Open System の主旨にそうべく、人文・社会諸科学と社会科の関係についても、具体的に検討してゆきたい。

〔教科書〕 特に用いない。

〔参考書〕 講義中に紹介する。

社会科教育法

大久保 治 男

現下山積する教育上の諸問題を意識しつつ、社会科の教科教育法のより効果的実践方法を探究する。学校教育における高校の「政治・経済」「現代社会」中学の「公民」など社会科系列の検定教科書や学習指導要領を分析しつつ社会科教育法の目標、構成、内容等に

について考究する。さらに具体的な指導計画、指導案、指導方法、教材研究、教育評価のモデルケースのプランニングや教育実習を通じて合目的教育方法を発見させるように努める。教師としての自覚や心構もわからせる。一方的講義ではなく受講生にも積極的に学習参加をさせ意慾をもって楽しい授業として進行するよう工夫する。

〔教科書〕 その都度指示する。

職業科教育法

中野目 直 明

下記の事項について、教職についての場合に役立つような視点から、具体的な事例を取り上げて講義を行なう。

1. 現代における職業の意義
2. わが国における職業教育の歴史と課題
3. 職業高校の現状と課題
4. 高校の新教育課程
5. 学習指導案、学習指導計画の作成
6. 教材研究
7. 外国の職業教育

〔参考書〕 宮地誠哉・倉内史郎編『職業教育』〔講座 現代技術と教育 4〕（開隆堂）

¥ 1,600

宮地誠哉『中等教育と職業生活』（川島書店） ¥ 1,600

商業科教育法

谷 敷 正 光

「職業教育」の一つである商業教育は、日本の資本主義をささえる重要な一環としてつねに重視され、産業構造の高度化、経営革新にもなつてめまぐるしく変遷してきた。そして、今後の高校教育の「多様化」政策の破綻にもなつて、再び大きく、軌道修正されようとしている。従つて、本講は「職業教育」のあり方そのものが問われている現在、しっかりとした商業教育を樹立するため、この「教科法」を商業教育の単なる技術論に終わらせることなく、より基本的な「教育とは何か」といったところまでさかのぼり、本格的な意味での商業教育論、職業教育論を展開し、教科担当の専門職としての認識を深めたい。

①日本資本主義発展と教育・職業教育、②教育の基本概念、③職業教育（商業教育）の概念、④高等学校における商業教育の現状と課題、⑤高等学校の教育課程、⑥商業科の教育課程、⑦商業科目の学習指導、⑧学習指導案の作成、⑨商業教科・科目の個別目標・内容・取り扱い、⑩教育評価、⑪教育実習のために、⑫教員採用試験の準備と今年度の採用試験について（教員採用試験の受験希望者は授業とは別に指導する）。

〔教科書〕 田中義雄『商業科教育論』（多賀出版）

矢川徳光『教育とは何か』（新日本新書）

〔参考書〕 国民教育研究所『高校職業教育の改革』（草土文化社）、遠山啓『競争原理

を超えて』(太郎次郎社)、田代三良『高校生』(岩波新書)、『あしたに魅
れ』(文理閣)その他商業の教科書、学習指導要領、新聞の切り抜き、雑誌
なども使用する。

〔注 意〕年間かなりの資料を作成配布するので、必ずファイルを用意すること。また
年間、数回校外研修(授業参観)などを行う予定である。

商 業 実 習

前 田 幸 一

授業の講義は次の内容にてすすめていく。

- (1) 商品の流通について。
- (2) 商品取引に係る諸機関とその機能について。
- (3) 商品取引過程に生ずる事務手続の実際について。

なお、講義と並行して、商品取引の実際面を会社見学などを通じて体得していくように
する予定である。

〔教科書・参考書〕未定(授業の際に指示)

職 業 指 導

山 田 勇 治

学校における進路指導とは、中学・高校の卒業時における就職や進学のみならず、
単なる斡旋指導ではなく、個々の生徒の発達段階に応じて、その能力・適性等を伸ばし、
生徒自ら望ましい進路を選択・決定させ、その後の職業生活において自己実現できるように指導し、
援助する活動をいう。ところが現状では、学力などによる振り分けが横行し、
本来あるべき進路指導には程遠い。

そこで、こういった学校進路指導の現状を文部省の実施した実態調査などによって明
らかにしてみたい。

また、将来職業につくための準備教育、つまり職業教育についても講述する予定であ
る。

〔教科書〕山田勇治『会計教育論』(創成社) ¥ 1,300

文部省『進路指導の現状と問題』(ぎょうせい) ¥ 200

〔参考書〕近藤大生・有本章編著『職業と教育—職業指導論—』(福村出版) ¥ 1,500

産 業 概 説

和 田 禎 一

資本主義経済発展の原動力は、産業革命以後の新しい産業の群生、その変化に負うと
ころが大きい。そこで本講座では、まず産業の概念、産業構造、産業組織を、現代的視
点で解説し、それらを基礎に、戦後日本の経済の展開にかかわった日本の産業と産業
政策を概観、分析、評価することとした。

〔教科書〕授業に際して適宜指示する。

世界史概説

前田正名

東アジア史の概説をする。殷からはじめ、宋代まで説明する予定である。

〔教科書〕 前田正名『東アジア史概説』（文化書房博文社）

世界史概説

青木道彦

歴史的世界としてのヨーロッパは、どのように成立し、どのように発展したかという点を中心に講義する。年間4～5回小テストを実施するが、理由なくこの小テストに欠席した場合は、定期試験の受験資格を失うというつもりで受講されるよう注意しておきたい。

特に教科書はきめないが、下記の二冊が参考になるであろうし、高校時代の世界史教科書を利用されるのもよいと思う。

〔参考書〕 祇園寺信彦『西洋史要綱』（御茶の水書房）

衣笠茂等『概説 西洋史』（東京創元社）

日本史概説

芥川龍男

中世を中心として講義するが、一方的な講義だけでなく、常に質問をしながら進めてゆく。講義中に紹介する参考書、文献などを積極的に読破してほしい。

講義の中で史料講読も併行して行なうので予習などはもちろん関係文献も読破し、口頭発表も可能なように常に準備して出席するよう希望する。

〔教科書〕 『日本歴史の視点』2 中世（日本書籍）

〔参考書〕 『日本歴史辞典』（角川書店）

地誌学概説

今朝洞重美

地誌学の本質論を考察しつつ、前期に日本地誌、後期に外圍地誌を講義する。

地誌学概説

長野 覚

世界的視野において地理学の発達・概念を理解したのち、現代世界の地域的特色を、自然環境やそれと関連性をもつ人文現象について考察する。

後期には幾つかの国を対象に、その国の地誌を学習する。受講にさいしては、できるだけ地図帳を併用してほしい。

〔教科書〕 藤岡謙二郎他共著『世界地誌』（改訂版）（大明堂）

地誌学概説

渡邊盾夫

読図の方法を理解したのちに、地誌について各国の地域的な特色を入れて講義をする。

受講の際には地図帳を持参すること。

自然地理学概説

早 船 元 峰

人間生活の舞台である大地の形成過程について述べ、人間と自然とのかかわりあいについて論じる。

さらに受講性に2.5万分の1、5万分の1の地形図を用意(10枚程度)させ、それらをもとに種々なる作業(土地利用図・切峰面図・帯状平行投影地形断面図等を作成)をさせてより一層の理解を深めさせる。トレース紙・方眼紙・色鉛筆・黒インク等各人用意のこと。

人文地理学概説

高 木 久

地理学思想・歴史を述べ、人文地理学の方法論を考察する。「地理的な見方、考え方」の基礎の上に立って、人文地理学の各部門(地図、自然、人文関係)について概説し、人文地理学の理解と関心を深める。

社会学原論

渡 辺 源 樹

社会学は、何よりも人間の共同生活についての、ひとつの経験科学として、実際の経験的事実の分析から出発する。このことを踏まえ、本講では、とりわけ社会集団と人間の問題という論点を中心にして、集団の構造と機能、地位と役割、さらには準拠集団・リーダーシップ・権力・官僚制等々の諸概念を用いながら、個々の具体的な諸集団を分析してゆこうと考えている。

経済学原論

小 野 俊 夫

いわゆる近代経済学は、徹視的理論と巨視的理論を二大支柱としている。前者は個々の経済主体の分析から出発し、後者は一国全体の経済現象を直接分析することによって、資本主義の経済過程を解明しようとするものである。本講義では、巨視的理論に重点をおくが徹視的理論にも注意を払いながら解説し、現代資本主義経済に関する分析力を養うことを意図している。

〔教科書〕開講の際に知らせる。

政治学原論

岡 田 皓 一

本講は、政治学の基礎理論をとりあげ、その原理的究明に視点をあてて講義する。特に本講では現代政治についての理解を深めるという意図から、現代国家と政治過程に力点を置き、そのなかで大衆社会と政治的諸問題、政治過程と政治集団などに触れつつ、さらに政治権力、選挙、国家、政治機構などといった問題にも論及する。

〔教科書〕飯山勇『政治学要論』(八千代出版)

民法 I

雨宮真也

民法のうち、総則・物権・担保物権の分野を講義する。

とくに、民法総則の分野においては、法律を学ぶうえで最も基本的な多くの考え方が現われてくる。たとえば、法律行為（契約も手形行為も法律行為の一種である）とは何か、その成立・不成立、有効・無効などについての考え方である。

3年次以降において、民法Ⅱ・商法・経済法など法律科目を履修しようとする者は、法学の基礎を学ぶという意味においても、民法Ⅰを履修しておくべきである。

〔教科書〕 雨宮真也 外二名 共著『民法読本Ⅰ（総則・物権・担保物権）』（高文堂出版社） ¥ 1,580

哲学特講 I（東洋）

篠原寿雄

中国の哲学・東洋思想を理解しようとする、儒教・仏教、そして道教の学習は欠かせない。そこで前期は老荘の学と道教を学びたい。後期には墨子の非命、非儒などの精神が韓非子にいかを受容されたかなどを中心に、先秦の人びとの心にあるものを探りたい。

〔教科書〕 そのつど紹介したい。

哲学特講 II（西洋）

国嶋一則

人間は、何かを頼りとし支えとしなければ生きてゆけない。しかし日常、われわれは自己の人生の頼りとなり支えとなるものを自覚していない。それを自覚することは、自分がどのような生き方をしているのかを知ることである。つまり主義に拠り主張をもって生きることである。

歴史上の大きな主義を検討することによって、現代世界の有力な主義を明確にし、自己の持つべき主義を選択する手掛りとしたい。

〔参考書〕 その都度示す。

宗教学特講 I

松田文雄

——宗教思想および用語の概説——、特に教職単位であることを考慮し、宗教思想の潮流、および宗教思想史上の基本的用語を概説する。今年度は日本仏教を取り上げる。

〔教科書〕 プリント

〔参考書〕 随時指示する。

宗教学特講 II

脇本平也

——宗教現象の構造——宗教現象は、その内部にさまざまな構成要素をはらんだ複合的な体系をなしている。たとえば、宗教体験、思想・教義、儀礼、教団などの諸契機が構造

的に連関しながらこれを形成している。そうした構造の分析と類型化を試みる。

〔参考書〕 適時指示する。

宗 教 学 特 講 III

洗 建

現代社会における宗教の問題、とりわけ政教関係の問題をとりあげる。国家と宗教の関係を規定する法制度とその価値規範、更に底流をなす宗教文化との関係などについて考察する。

〔参考書〕 適時指示する。

教 育 史

磯 野 昌 蔵

わが国及び欧米諸国における青年期教育の発達を検討する。

宗 教 教 育

桜 井 秀 雄

宗教教育の原理を究明し、できるだけ実証的な調査資料によって宗教意識をさぐり、これに対する具体的方法について考察し、家庭・学校・社会教育のそれぞれにおける宗教教育の意義と実際を研究する。

〔教科書〕 日本宗教学会編『現代青少年の宗教意識抄』

教育関係法規

汐 見 稔 幸

現代日本の公教育を支えている教育法制的仕組みを理解するために、主として憲法・教育基本法の成立の背景とその歴史的意義を説明し（前半）、それに基づき、学校教育を具体的に規制している教育関係法則を、事例をまじえながら説明する（後半）。関連して、教員になろうとする者が理解しておかねばならない今日のわが国の教育諸問題の要因を考え、その解決や克服の方途を探り合うことをめざす。

〔参考書〕 『教育小六法』（学陽書房）

図 書 館 学 I

若 林 元 典 ・ 山 崎 慶 子

児童、生徒の学習活動や教養・趣味を豊かにするには教科書の他に各種の資料を必要とする。最も有効適切な資料は何か、どうしたらそれらをすべての生徒に提供できるか、それらを利用する力を高めるにはどうしたらよいか、又人間形成に役立つ読書のあり方等の追求を学校図書館活動として考えて行きたい。

前期の講義内容は「学校図書館通論」と「学校図書館の管理と運用」で、後期は「学校図書館の利用指導」と「読書指導」である。

〔教科書〕 図書館教育研究会『学校図書館通論』（学芸図書）

図 書 館 学 II

若 林 元 典

小・中・高校における教育活動の肉付けとなる教材資料のうちで最も基本的な図書資料を主とし、それに図書以外の資料を加えて、各種資料の収集・整理・利用のために必要とされる知識・技能の修得を目指している。

整理は利用のための整理であり、利用の能率と効果は良質な資料の収集と適切な整理によって裏付けられる。したがって図書館学は収集・整理・管理・利用の全領域にわたる資料運用の学である。

「図書の分類」、「図書の目録」、「資料の選択」、「図書以外の資料の利用」が講義内容である。

〔教科書〕 図書館教育研究会『学校図書館通論』（学芸図書）

『図書館学演習資料 後編』（全国学校図書館協議会）

博 物 館 学

倉 田 芳 郎

学芸員課程の必修科目であり、社会教育主事課程の選択必修科目でもある。「博物館実習Ⅲ（見学）」ならびに「実習Ⅳ（特講）」と有機的に関連をもたせるので、同年度に併せて受講していただきたい。また、後期は午後いっぱい使って見学を行うことになるので、時間割を組むうえで、各自研究してもらいたい。なるべく2～3年生の時に受けておくことが望ましい。4年生で受けると、学芸員資格を卒業時に取得するのは難しいかもしれない。本講義は博物館学の基本を講ずるので、この講義を聴くだけでは博物館を全く識るには程遠いのである。その点からいえば社教主事の資格を取得しようとする方は、なるべくは他の選択科目を受けていただきたい。4月第1週の時間に必ず出席すること。

博 物 館 実 習 I（館務）

倉 田 芳 郎・石 井 孝 則

博物館で10日間学芸員について実習を行う。学芸員課程の必修科目である。この科目は学芸員課程の総仕上げでもあり、無条件に、誰でも履修できるわけではないので、年度第1週のこの科目の時間に必ず出席すること。欠席した場合は来年度履修することになる。

博 物 館 実 習 II（収集）

倉 田 芳 郎・葉 貫 麿 哉
所 理 喜 夫

学芸員課程の必修科目である。詳しくは、年度第1週の講義時間に話すので、必ず出席すること。実習の種類・時期は下記の予定である。このうちの、1つを履修すればよい。

1. 考古学発掘調査 7月中旬から8月中旬
2. 民俗調査 8月下旬と2月中旬
3. 文書・石仏調査 9月下旬

4. 石仏調査 10月上旬
5. 遺跡分布調査 2月中下旬

博物館実習Ⅲ(見学)

倉田 芳郎・鶴丸 俊明

学芸員課程の必修科目である。

都内および都周辺の博物館を見学する。博物館・学芸員の使命・役割を識るためには教室の講義だけでは不足である。そのため、現場で学芸員の方のご講義を承り、博物館運営上の諸問題について考えたい。実習は前期・後期のいずれかの半期行うのであるが、組分けを決定する関係上、今年度履修しようとする学生は、必ず4月第1週に出席すること。

博物館実習Ⅳ(特講)

石井 則孝

日進月歩の博物館の世界に於て、相変わらず新設館の建設ブームは続いている。このような環境の中で、千葉県佐倉市に建設された「国立歴史民俗学博物館」が昭和58年春3月に開館する。建物の規模はさることながら、コンピューターシステムの完備、開かれた博物館として、共通利用施設としての活動がみものである。この新時代を迎えての博物館は、今後どのような展開をみせ、発展していくのか、実践的な博物館展示を通して、一般市民と博物館の関係を明らかにして、「モノ」の在り方から、社会教育、生涯教育を考える時、いかに博物館を利用していったら良いのか、理論よりも実践面を教示する。

視聴覚教育

赤堀 正宜

学校教育や社会教育における視聴覚教材の利用について考える。

学校教育番組や社会教育番組の利用は、教育方法・内容の革新につながり、教育工学の一部となっている。視聴覚教育の原理・具体的な利用方法、その教育的効果を明らかにしていく。

(注) 特別教科書は使用しません。

〔教科書・参考書〕 必要に応じてその都度参考図書を示す予定です。

日本文化史Ⅰ

圭室 文雄

日本における歴史の流れを考える時、その文化現象として宗教が果たした役割はきわめて大きい。ところが現代の生活においては、冠婚葬祭を除けば我々の日常にはほとんど関係がなくなっている。それだけに我々が過去の歴史を考えると、ともすれば等閑視するきらいがある、それゆえ、ここでは古代より現代に至る生活の中で、宗教が果たした役割をあきらかにしたいと思う。

〔教科書〕 池田英俊・大浜徹也・圭室文雄編『日本人の宗教の歩み』(大学教育社)

印度仏教文化史

奈良 康明

いかなる社会であれ、その成員により獲得され、習熟され、伝達されてゆく諸観念や慣習、儀礼等がある。かかる生活様式の統合的な体系を文化と呼んでいい。仏教の研究においても、例えば涅槃を中核におく高次の教理の研究も仏教文化の一側面を明らかにするものであることは疑われない。そうした高いレベルの観念や行法を一方におきつつ、他方に、各種民間信仰的な諸観念や儀礼、生活慣習等、日常レベルの生活様式を考察し、且つ、両レベルのかかわりあいをみるところにはじめて仏教文化が全的なすがたでとらえられるのではないか。本講座はこうした視座からインドの社会、宗教とかかわらせつつ、仏教文化の歴史にアプローチをこころみる。

〔参考書〕 辛島昇『インド入門』（東大出版会）

奈良康明『仏教史—インド、東南アジア—』（山川出版）

西洋文化史 I

椽川 一朗

都市史。中世および近世の西洋都市につき、時代別・主要国別に、比較しつつ講述する。とくにドイツについては、昨年度の「各説」における農村社会構造史の続きの意味をこめて、詳述する。

西洋文化史 III

阿部 重雄

16—17世紀はヨーロッパの近代がはじまる時期で、激動の時代である。この時期の社会と思想を関連づけながら展望する。

〔教科書・参考書〕 その都度指示する。

仏教美術

林 良一

仏教美術の図像学ならびにインド以来の様式的展開について講述する。寺院の遺跡や仏菩薩等の尊像を、原地撮影のカラー・スライドによって映写し、理解を深めるように努める方針である。

現代美術

中山 典夫

印象主義にはじまる現代美術の流れを、絵画作品を中心にして、追ってゆく。講義にはスライドを用いる。

禅美術

竹内 尚次

禅美術の国宝・重要文化財を時代をおって、それぞれについての確実な史料を提示し、それぞれの時代背景を明示する。これによって、禅美術の高い美術性を、学生それ

それが自分の目と手と足で探究する手助けとしたい。

従って、春秋2回の古美術を参観することによって、それが十分でないとしても実物（各時代の眞蹟）に触れ、東洋の美術作品のなかに内在する純粋な詩と哲学を直かに把握するように希うものである。

また、広く旧仏教・密教・浄土教などの高度の美術作品をも考慮に入れて、学習そのものにも幅と厚みをも加えたいと思う。単にカルチャーや術学を求めようとする人は、お断りしたい。

〔参考書〕 玉村竹二『夢窓国師』（平楽寺書店）

美術史概説

林 良 一

本年度は、日本の古代美術史、ことに飛鳥・白鳳・天平時代の様式史的展開について講述する。寺院や遺品などのカラー・スライドを映写し、理解を深めるように努める方針である。

西域美術史

林 良 一

西域美術、ことに仏教美術を中心として、各地遺跡および遺品について講述する。遺品などのカラー・スライドを映写し、理解を深めるように努める方針である。

〔参考書〕 林良一『シルクロード』（美術出版社）

考古学概説 I（日本）

倉 田 芳 郎

考古学研究の基礎知識を身につけるように、という点に立って講義をする。今年度は、ヨーロッパの考古学の発達に重点をおいて話す予定である。歴史学科学学生にとっては、概説の選択必修科目ならびに専門選択科目である。また学芸員課程の学生にとっての選択必修科目でもある。年度第1回目の授業には必ず出席してほしい。特に教科書は使わない。

考古学概説 II（外国）

飯 島 武 次

本年の考古学概説II（外国）は、東洋（中国、朝鮮、東南アジア）における考古学研究について講義する。

〔参考書〕 文物編集委員会『中国考古学三十年』（平凡社） ￥ 8,800

考古学特講 II

飯 島 武 次

夏商周考古学研究についての講義。

考古学_特講 IV

狩野千秋

アメリカ大陸の古代文明のうち、とくにマヤ、アステカ、インカを対象として、それぞれの生成過程と文化の特質について考察することにした。

〔教科書・参考書〕 教場にて指図する。

日本民俗学

山折哲雄

日本人の民族性と自我構造の特質について、民俗学の立場から考察する。

〔教科書〕 山折哲雄『日本人の心情』（NHKブックス）

仏教民俗学

和田謙寿

文化財の集いや郷土史の研究会にのぞんだ場合、必ず仏教文化史的な知識が必要となってくる。更にまた、葬式や法事などに出かけると必ず、仏事などに関する質問を受けるものである。このような場合に対処出来るように冠婚葬祭、特に先祖供養と葬送の面に重点を置き今年の講座を進めて行きたいと思う。尚、実地巡検や特殊ゼミ・夏季休暇を利用しての海外特殊巡検（希望者）を実施する場合もあるので留意してほしい。

〔教科書〕 和田謙寿『仏教の地域発展』—民俗学・歴史学的考察—（仏教民俗研究会）

¥ 2,600

宗教人類学

佐々木宏幹

諸民族の呪術—宗教的生活を構造—機能的に理解しようとした人類学者の研究論文を若干取り上げ、紹介するとともに、私が国内、国外各地で行なった実態調査の結果について述べる。参考書は必要に応じて挙げる。

考古発掘実習

飯島武次

野外における発掘実習を行なう。夏休みに行なう発掘実習に、20日間以上参加することが必要である。年度始めの講義時には必ず出席すること、欠席すると実習参加が不可能となるので注意されたい。

社会福祉概論

高橋重宏

わたしたちは、日常生活のなかで、「福祉」、「社会福祉」、「社会福祉事業」、「ソーシャル・ワーク」などのことばを安易に使用している。本講義では、まず、これらの基礎的な概念の整理をすることから始めたい。ついで、社会福祉の歴史的展開過程、社会福祉のしくみ、分野、ソーシャル・ワークなどについて論及し、社会福祉の現況と課題について、

一応の体系的な理解ができるようつとめたい。

〔教科書〕 高橋重宏・島村忠義編著『社会福祉を考える』（川島書店）

〔参考書〕 『社会福祉六法』（第一法規）、『現代社会福祉事典』（全国社会福祉協議会）

障害福祉論

原田 信一

主として、わが国における心身障害児(者)福祉の発展過程をその淵源にさかのぼりつつ講じたい。なかでも、とくに、思想面(社会的規範)と政策面等の二面的視角にたち、原点を探るとともに、さらに欧米先進諸国のそれとの対比から、わが国の心身障害福祉の見直しをはかり、新たな課題構築の素としてもらう。

〔教科書〕 星野他編『障害福祉論』〔第二版〕(有斐閣)

〔参考書〕 林邦雄他『心身障害児(者)福祉』（田研出版）

社会福祉実習

原田 信一

これまで自らが、大学の場において学びとってきた福祉学という学問を、実習現場において、実際の福祉従事体験等を通してそこにいかなる相反や矛盾面があるかなどの現実認識を深めるとともに、福祉の本質の一端を学びとってもらう。一方大学においては、実習前と実習後に、オリエンテーション、現業機関の組織、機能等を実践に即した概説などをトータル的に教導し、反省・討議をもあわせて行う予定である。また、実習にのぞむにさいしては、各自が、実習の目的を適確にとらえ、何をとくに実習するかの問題意識を整理し実習にのぞんでもらうことについては今更言うまでもないことである。

〔教科書〕 橋本泰子他編『社会福祉実習』（相川書房）

社会福祉法制

小林 弘人

本講義は、憲法25条を具体化する社会保障・社会福祉に関する法を検討・整理し、体系化することを目的とする。前期の前半は、『社会学研究』15号所収の「西ドイツにおける社会保障行政」を資料にして、主として西ドイツにおける社会福祉に関する法の問題点を検討する。この検討を終えた後は、教科書「社会事業法制」に準拠して、当初の目的達成のための講義を行う。

〔教科書〕 小川政亮『社会事業法制』（ミネルヴァ書房）

公的扶助論

小沼 正

公的扶助は、社会保障とくに所得保障において、社会保険と並ぶ主要な部門であり、貧困救済の最後の安全網 Safety net といわれる。わが国では生活保護制度によって代表される。

生活保護について、欧米諸国を念頭において、歴史的生成過程、現行制度とそのまま問

題点——最低生活水準とその算定方法，保護率，受給者の権利意識その他——，将来の方向などを取上げる。

これら諸問題は，ひろく社会保障そのものを規定する基本的条件である。

〔教科書〕 小沼正『貧困—その測定と生活保護—』〔第二版〕（東京大学出版会）

〔参考書〕 笹山京『公的扶助論』（光生館）

仲村優一『生活保護への提言』（全社協選書）

児童福祉論

原田 信 一

今日，児童をめぐる法律・制度は整備され，社会福祉分野においても，いちじるしい進歩をみた。しかし，現実面では必ずしもそうとばかりはいいきれない。つまり，日々，目まぐるしく激動する社会で，引切り無しに生起する種々の児童福祉侵害問題に対応しきれない状態が今日の姿である。児童の人権無視にはじまり，公害・家庭崩壊・機能低下など限りなく現出し，まさしく児童福祉の危機的様相をみせている。そこで，本講においては，児童福祉を広い視座から考察し，児童への理解と併せて，児童に関連ある法制度にも言及しさらに，狭義の児童福祉事業（児童福祉法など）の関連にもふれ講じてゆきたい。

〔教科書〕 原田信一『現代児童福祉学』（学文社）

老人福祉論

奥山 正 司

日本の老人福祉を論じるばあい，まず，その社会的背景となる人口高齢化の問題，定年制や高齢者雇用の問題，地域社会の変貌と老人社会参加のあり方，家族と老人扶養のあり方などを，それぞれ検討する必要がある。したがって前半で，人口高齢化と老人扶養のあり方，定年制の状況，家族構成の変化と老人問題，家族周期と老人問題などを講義し，その後，老人福祉制度と老人のかかわり，老人処遇のあり方，老人のモラルなどについて講義したい。

なお，授業の進め方，参考文献などは，受講者の人数や関心などを考慮に入れ，開講時に決定したい。

社会保障概論

小沼 正 正

先ずわが国制度の現実を把握するため，その主要な医療保障，年金保険，公的扶助，児童手当などについて概観し，それぞれの問題点を取り上げる。

ついでこれらをふまえて，その生成と発展に視点をおいて，欧米諸国をも含めて，社会保障の体系，社会経済的条件，財政などについて，論点を進める。

〔参考書〕 小山路男・山本正淑編『社会保障教室』（有斐閣選書）

小山路男・佐口卓編『社会保障論〔新版〕』（有斐閣双書）

「地域住民に“根廻し”をするにはどうすべきか」を中心に論ずる授業である。“根廻し”はなぜ施さなければならないのだろうか。それは、ケースワークやグループワークを、現実の住民生活のなかに定着させるためである。

「ワーカーは福祉三大技術を総合的に駆使しなければならない」(integration)と言われるが、その具体的意味は、上記の通りである。その点で本講は「方法総論」、「ケースワーク論」、「グループワーク論」と補完関係にたつものである。

①地域福祉の基本課題。②コミュニティ・ケア。③コミュニティ・オーガニゼーションが、本講の内容であるが、第①のテーマはそのまま地域問題論である。従って、同じ担当者の都市社会学を、ともに知ってくれることが望ましい。(もちろん本講だけを履修する人に不利や理解困難が生じないように細心の工夫はするが)

〔教科書〕 岡田真『コミュニティ・ワーク論』(大明堂)

〔参考書〕 岡田真『都市化日本の学歴社会』(大明堂)

小沼正『日本の福祉の課題と展望』、『日本都市学会年報』(1983), 『駒大文学部研究紀要』(1981), 『駒沢社会学研究』(1982)の岡田論文。

ケースワーク論

高橋 重宏

ソーシャル・ワーク実践の専門技術の一つであるソーシャル・ケースワークについて、まず、ケースワークの意義、定義、歴史的展開過程、原理、トリートメント過程、関連理論などについて論及する。さらに、ケースワークの臨床事例を紹介し、ソーシャル・ケースワークとは何かが体系的に理解できるようにつとめたい。なお、後半の臨床事例研究では、小グループでのディスカッション、発表など、学生の主体的参加を求めるので留意しておくこと。

講義を効果的に展開するために新設された『社会福祉方法総論』も併せて履修すること。

〔教科書〕 仲村優一編『ケースワーク教室』(有斐閣)

高橋重宏・宮崎俊策・定藤丈弘編著『ソーシャル・ワークを考える』
(川島書店)

グループワーク論

松本 栄二

社会福祉実践における伝統的な方法としてのグループワークについての入門的な講義。グループ指導とソーシャル・グループワークの共通点と相異点。

グループワーク概念についての明確化を歴史的な流れのなかで検討。Social work with group と Social groupwork 両者の比較検討。

グループワーク実践の記録を通じて、具体的な援助技法について紹介、病院、学校、諸々なるタイプの収容施設における実践記録を用いて検討。

出来れば、Role Plag, フィルム等も用いて講義をすすめてみたい。

〔参考書〕 コノプロ『ソシアルグループワーク』（全国社会福祉協議会）

社会福祉事業発達史

林 千代

社会事業は、近代社会がスタートするにつれて生成したと考えられている。もちろん、いつの時代にも、生活の不安は→自然の変化と社会の変動によって生み出されてきたといえる。社会の変動期には、常に多くの問題が生じ人々は生活困難におちいった。こんにちの社会福祉事業、社会福祉、社会保障、福祉国家に至るプロセスは長く、かつ遠かった。外国、特に英国そして日本にわけて、対象の存在と問題解決の方法、方法の意図や施策の背景をなす社会福祉の思想等々を中心に講義していきたい。一定の歴史的産物である社会福祉その本質は何か、その現状は等々を考えるためにこそ、歴史を学ぶ意義がある。

〔教科書〕 未定

〔参考書〕 その都度紹介していく。

母子福祉論

林 千代

私は、婦人問題の視点から婦人福祉を組立てているが、それは、性差別を根底に婦人の生存や生活が不安定化する局面、その解決へのプロセス、施策が主な内容になる。そして、婦人の生きさえあやぶまれる状況の一つが母子家庭になった時なのである。これらは、いわば婦人問題の集約であり、福祉施策の最も具体的な対応がせまれる。このような問題意識に立って、講義のあらすじを示すと次のようになる。1. 母子家庭とは（法的規定、生成要因など）、2. 母子家庭の生活実態とその困難（所得、消費生活、家事機能、住宅等）、3. 母子家庭の生活問題に対応する母子福祉施策（経済的貧困に対して、育児、病気、住宅について、母子寮についてなど）

〔教科書〕 特になし。

〔参考書〕 その都度紹介していく。

医療社会事業論

春見 静子

医療技術の進歩と疾病保険の普及により、現代人の生活は医療に対してますます密接な関係をもつようになった。しかし、いつの時代も疾病は患者はもとより家族にとっても大きい脅威であり、そのために医者による治療だけではなく、MSW（医療社会事業者）による心理・社会的または地域活動的援助が求められる。この授業の目的は、一般病院、精神病院、施設などで医療チームの一員として患者の問題を分析評価して専門的援助ができるようになるための基礎的な知識と初歩的な技能を授けることによるための基礎的な知識と初歩的な技能を授けることであり、そのために講義だけではなく事例研究や実技を含むことになる。

〔教科書〕 杉本照子 『医療におけるケースワークの実際』 (医学書院)

〔参考書〕 小松源助他編 『事例によるケースワーク演習』 (川島書店)

田村健二他編 『精神障害者福祉』 (相川書房)

社会福祉方法総論

高橋重宏

社会福祉実践の専門技術について、その歴史的展開過程、現代社会におけるその独自の社会的機能を明確化し、ソーシャル・ワークについての入門的解説を中心に、事例を用いながら展開したい。

〔教科書〕 高橋重宏・宮崎俊策・定藤丈弘編著『ソーシャル・ワークを考える』

(川島書店)

社会福祉管理運営論

重田信一

社会福祉実践を、社会福祉行政機関・団体・施設の運営をとおして、福祉効果をたかめるよう方向づけ、それを確保できるよう組織化し、関係者を動機づける具体的な方法について研究したい。教科書のほか、参考事例を引用して、実践に役立つよう配慮する。

〔教科書〕 重田信一『アドミニストレーション』 (滅信書房)

〔参考書〕 高沢武司『社会福祉の管理構造』 (ミネルヴァ書房)

全国社会福祉協議会編『社会福祉施設運営管理論』 (全社協)

リハビリテーション論

原田信一

リハビリテーション領域のなかで、いちじるしく遅れをみせているのが、社会リハビリテーションであるといわれる。この分野は、内蔵する問題が広汎・多岐に亘っているばかりか、いずれも困難な問題を抱えていることがいちじるしく遅滞をもたらす原因につながっているといわれる。そこで本年はとくに、社会リハビリテーションに視点を絞り、その基本問題をふまえ、社会・文化的環境を考察し、政策と実践の方法論、それらを支える隣接科学面ならびにリハビリテーションの国際的展望等について概説したい。

〔教科書〕 講義ノートによる。

〔参考書〕 随時指示する。

社会教育概論

磯野昌蔵

社会教育制度と法

学校教育と社会教育

社会教育関係団体

社会教育方法論

磯野昌蔵

社会教育の諸形態と施設について検討する。

社会教育行政財政

酒匂一雄

社会教育行政は、施設の設置・運営、集会の開催、資料の作製その他の方法で、「すべての国民があらゆる機会、あらゆる場所を利用して、自ら實際生活に即する文化的教養を高め得るように環境を醸成するように努める」ことを課題としている。

①まず多くの具体例を導入部とし、②社会教育行政を政策や法制、運動との関連で理論的に考察し、③戦前、戦後の歴史的展開を跡づけて概観する。④さらに、社会教育法利の構造、特質、展開を検討し、⑤住民と行政のかかわり、社会教育職員の役割を吟味し、⑥自治体における社会教育計画と財政の現状と課題を整理する。

〔教科書〕 必要によりプリントを用意する。

〔参考書〕 小林文人他編『社会教育ハンドブック』（総合労働研究所）

『社会教育行政必携』〔58年版〕（第一法規）

教育社会学

村山輝吉

人間の発達という課題を、主として社会環境と文化の変容という視点から概説する。

1. 教育社会学の性格
2. 家族の訓育機能
3. 仲間集団と人間形成
4. 学校の陶冶・形成機能
5. 地域社会と教育
6. 文化の変容と子どもの発達

社会心理学

坪井健

本講義は、社会心理学をめぐる諸問題に配慮しつつ、基本的には社会生活をしている人々の社会心理諸現象を、これまでの社会心理学が明らかにしてきた知見に依拠して、その社会的過程と心理的過程を分析的に解明することを目的とする。

〔教科書〕 開講時に明らかにする。

社会教育施設

村山輝吉

1. 社会教育施設とは
2. 社会教育施設の歴史と現況、関係法規
3. 施設各論

- (1) 公民館 (2) 図書館 (3) 博物館 (4) その他

4. 施設職員の問題

児童教化

富田博之

学校教育、社会教育、家庭教育など、広く子どもの教育に関わる人々のための《児童文化入門》とするため、受講者の人数、関心、要求などを考慮の上、つぎのようなプログラムの中から、取捨選択して授業内容を組みます。

- (1) わが国の児童文化をつくった主要な人物の業績をふりかえってみることを通して、児童文化とは何かを考察する。〔児童文化小史〕
 - (2) 現在、子どもをとりまく文化状況はどうなっているかを展望し、検討する。《児童文化の現状》
 - (3) 児童文化活動に関わる人々に必要な基礎的力を身につけるための実習。《お話、遊び、演劇などのコミュニケーション・メディアの学習》
- 〔教科書〕 使用しません。
〔参考書〕 富田博之『児童文化入門』（国士社、近刊）

青少年問題研究

和田謙寿

中学校・高等学校の教師をめざす者、ならびに青少年指導者（社会教育主事・保護司・民生（児童）委員・青少年指導員）を志す人々を対象とし、その理論と現実の両者を見つめつつ講義をして行きたい。特に学校の教師となった場合、専攻した学問は当然のこと、受持った生徒の生活指導にも多大の比重で尽くさねばならぬ。

その点にも深く留意して授業をすすめる事にしたい。

青少年問題に興味を持ち、外部の機関と連携しつつ更に研究しようと心掛ける者は、青少年問題研究室の研究会員として入会されるのも一方法と考えられる。

〔教科書〕 和田謙寿『少年補導の研究』（全防連） ¥ 1,200

青少年指導演習

和田謙寿

年々少年の不良化や犯罪の増加していることは誠になげかわしい次第である。国家や地方公共団体はこれに対応して万全の策をつくしているが、焼石に水の現状である。この種の問題は理論だけで済まされるものではなく、実際的な面からの考察が必要である。将来、保護司や民生委員（児童委員）、少年補導員、社会教育主事などの社会教育行政に従事しようとする人々には、是非とも必要な講座である。青少年の問題に興味を持ち、外部の機関と連携しつつ、更に研究しようと心掛ける者は、青少年問題研究室の研究会員として入会されるのも一方法であると考えられる。〔ゼミなので人員数の多い場合は制限することもある。〕

社会教育演習

上 岡 安 彦

“社会教育実践記録”による通年のテキスト学習を行なう。又、秋には埼玉県川口市の公民館、幼児館、児童文化センター、青少年会館、婦人会館、視聴覚ライブラリー等による一週間の現場での社会教育実習を行なう。

〔教科書〕 永田良行『成人教育への挑戦』（財団法人全日本社会教育連合会） ¥ 750
文部省内社会教育行政研究会編集『社会教育行政必携』（第一法規） ¥ 1,800

教育評価

大 浜 幾 久 子

生徒の発達を正しく測定し、評価することは、本来、教師の教育実践の中で重要な仕事である。教師は、評価を通して、生徒のつまずきを発見し、自らの実践を反省する。また生徒も、評価を手がかりとして、以後の自分の学習の方向を考える。ところが、教育評価ということばかり多くの人がまず思い浮かべるのは、学力テスト・偏差値・通信簿・内申書等であり、これらは、大多数の父母・教師そして生徒にとって、今日の学校教育の矛盾の象徴として映っている。では、教育評価の本来の機能をとりもどすにはどうしたらよいのだろうか。教育評価の理論の歴史をたどり、また教育測定・評価の技法を実習を含めて学ぶことにより、この問題を考えていく。

〔参考書〕 永野重史『教育評価論』（第一法規） ¥ 1,800
池田 央『テストと測定』（第一法規） ¥ 1,800

教育法規研究

神 田 修

教育法規の基本問題を考える。

〔教科書〕 『解説 教育六法』〔昭和59年度版〕（三省堂）
兼子仁・神田修『教育法規事典』〔昭和57年第二版〕（北樹出版）
神田修・山住正己『史料日本の教育』〔昭和57年 改訂増補版〕（学陽書房）

成人指導及青少年指導

酒 匂 一 雄

今年は、子どもの発達と家庭・地域の教育を中心に講義する。

①現代教育にとって、青少年の発達にとって、家庭・地域はどういう意義をもつか、調査結果から考察。②地域の子育ての習俗、戦前の少年団体の組織化などの歴史を概観。③現代の子どもの生活構造の変容、「学校外教育活動」の現状、子ども会・少年団などと地域の教育力の内容を把握。④地域の子どもをめぐる国の政策。⑤地域の教育と社会教育行政、児童館や学童保育の現状、学校と地域の連携協力とそこでの「指導」のあり方などを考察する。⑥あわせて成人の発達にとっての地域の意義と「指導」の種々相を吟味する。

〔教科書〕 必要によりプリントを用意する。
〔参考書〕 酒匂・増山『子どもの発達と家庭・地域の教育力』（岩波講座『子どもの発達と教育』7）

